

和仏法律学校講義録

富谷, 銈太郎 / 若槻, 禮次郎 / 下村, 宏 / 山口, 弘一 / 松岡, 義正 / 矢作, 榮藏 / 栗津, 清亮 / 金井, 延

(出版者 / Publisher)

和佛法律學校

(巻 / Volume)

2-3

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

53

(発行年 / Year)

1900-03-10

和佛法律學校

講義錄

第貳部

第參號

商法保險 (自三八三) 法學士栗津清亮

商法手形 (自二八七) 法學博士富谷銑太郎

破產法 (自三六) 法學士松岡義正

經濟學總論 (自一四三) 法學博士金井延

經濟學各論 (自一六九) 法學士矢作榮藏

財政學 (自四三八) 法學士下村宏

國際私法 (自二五〇) 山口弘一

現行租稅法論 (自一二九) 法學士若槻禮次郎

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23

090
1900
2-1-3

爲メニ保險金受取人ナル資格ヲ發生セシムルニ至レリ此事ニ付テハ後ニ詳論
セント欲ス

第二 報酬

報酬トハ保險者カ損害填補ノ責ニ任スルコトノ報酬トシテ保險契約者ヨリ
受クル所ノ金額ニシテ之ヲ保險料ト稱ス損害填補ノ責ニ任ストハ契約ノ成
立後常ニ賠償ノ責ヲ負擔スルコト云フコトニシテ或者ハ保險者ノ責任ハ單ニ
事故ノ到着ニ因リテ保險金ヲ支拂フ其責任ノミナリト思惟スルカ故ニ諸君
ハ此ノ如ク誤解セラレサランコトヲ望ム

第三 事故

保險契約ハ不確定ニシテ且ツ經濟的損害ヲ惹起ス所ノ出來事ヲ主眼トス事
故トハ即チ此不慮ノ危險ナリ危險ニハ絶對的ト關係的トアリ保險契約ニ於
ケル事故ハ必スシモ絶對的危險ナルコトヲ要セス
事故ニハ發生夫レ自身カ不測ナルト發生ノ時期カ不定ナルトノ二種アリ然
レトモ不確定ナルコトニ付テハ其ニ同一ナリ

又事故ハ經濟的損害ヲ惹起スルモノタルヲ要ス經濟的損害トハ金錢ニ見稱
 リ得ヘキ損害ノ謂ニシテ保險契約ニ依テ償ハルル所ノ損害ハ總テ財産上ノ
 損害ナリ但シ我商法ハ之ニ反對ノ主義ヲ以テ保險契約ニ依テ填補セラルル
 損害ハ經濟上ノ損害モアレハ又他ノ種類ノ損害モアリト信スルカ如ク規定
 セルヲ記憶セラルヘシ他ノ種類ノ損害トハ人ノ生死ニ伴フテ起ル損害ノ如
 キハ金錢ヲ以テ計ルヘカラスシテ愛情ノ存喪ナリト云フニ在ルカ如シ此ノ
 如キ主義ヲ以テセハエーレンベルヒフ定義ハ不適當ナリ

第四 財産ノ供出

事故ノ發生ニ際シテ保險者カ供出スヘキ財産ヲ保險金ト稱シ通常金錢ヲ以
 テ支拂フト雖モ其目的トスル所ハ元來利益ヲ保全スルニ在ルカ故ニ其目的
 ヲ達スルニ於テハ強チ金錢ヲ以テスルヲ要セス保險ニ附セラレタル物件ヲ
 原形ニ復セシムルコトヲ得レハ如何ナル方法ヲ以テスルモ可ナリ

第五 獨立ノ合意

獨立ノ合意トハ他ノ契約ニ附隨シテ存在スルモノニ非スシテ單獨ニ成立シ

得ル契約ヲ云フナリ世間ニハ或性質ニ於テ保險契約ニ類似セルモノアリ即
 チ保證ノ如キ屢々保險ト混同セラル例ヘハ保險附時計保險附蠟燭傘ナトト
 唱ヘテ恰モ保險者カ危險ノ負擔ニ任スルカ如キ體裁ヲ以テ保證ヲ行フコト
 アリ然レトモ此ノ如キ行為ハ決シテ獨立シテ存在スルモノニ非ス時計若ク
 ハ傘等ヲ販賣スル者カ其物品ニ自己ノ所信ヲ主張スル結果トシテ一種ノ責
 ヲ負擔スルニ過キス又口入業者カ雇人ノ身元引受ヲ爲スモ身元引受ヲ保險
 スルニ非ス周旋業ニ附隨シテ行ハルル所ノ片務行為ナリ其他運送人カ貨物
 運送中其損害ヲ負擔スル約ヲ結フ如キハ運送契約ト云ヘル主タル契約ニ附
 隨シテ行ハルルニ過キス保險契約モ其根源ハ是等ニ起源セシヤモ知ルヘカ
 ラサルモ現今ニ於テハ一個獨立シタル契約ノ種類ヲ形成シ獨立シテ損害擔
 保ノ行為ヲ行フモノニ限ル

以上ヲ以テエーレンベルヒ氏ノ定義ヲ畧小説明シ終レリ而シテ之カ果シテ保
 險契約ヲ説明セテ餘蘊ナキヤト云フニ尙ホ少シク足ラサルヤヲ疑フ即チ同氏
 危險發生ノ期間ヲ曰ハス又契約ノ集合ヲ考慮セサルナリ

當事者ノ一方カ損害ヲ受ケテ他ノ一方ニ填補セシメ得ル期間ハ確定セラレタルモノナラサルヘカラス之ヲ保險期間ト稱シ其間ニ發生シタル事故ニ因リテ生スル損害ノミヲ填補スルモノナリ
契約ノ集合トハ同一ノ保險者カ數多ノ保險契約者ヲ相手トシテ同時ニ多クハ契約ヲ締結スル場合ヲ想像スルノ謂ニシテ是レ保險ノ本質上自明ノ事ナレトモ保險契約ヲ定義スルニハ先ツ之ヲ表示スルヲ必要トス然ラザレハ保險契約ト他ノ單純ナル射倖契約又ハ恩惠契約ト混淆セララル虞アリ故ニ保險契約ノ定義ハ左ノ如クスルヲ至當ナリト信ス

當事者ノ一方カ報酬ヲ受クル代リニ他ノ一方ニ不確定ニシテ且ツ經濟的損害ヲ惹起ス所ノ事故ノ一定期間内ニ於ケル發生ニ際シテ財産ヲ供出センコトヲ約スル所ノ獨立ノ合意ニシテ此契約ハ前者カ後者ノ多數ニ對シテ約諾セザクハ約諾スヘキ所ノモノナリ

第二節 保險契約ノ性質

保險契約ノ性質トハ保險契約カ法律學上ニ於テ有スル所ノ性質ヲ謂フナリ

一 保險契約ハ偶成契約ナリ又委運契約ト曰乙

契約ハ締結ニ始マリ履行ニ終ル而シテ保險契約ノ履行ハ偶然ノ事故ニ屬セテ時期ニ付テハ不定ニシテ實行ニ付テハ不測ナリ故ニ學者ハ稱シテ偶成契約ト曰フ時期ノ不定若クハ發生ノ不測ハ事故カ運命ニ基カテ故ニシテ保險契約ノ履行ハ一ニ運命ニ依賴セリト云フ點ヨリ又委運契約ト稱セリ而シテ運命ニニアリ一ヲ善運ト曰ヒ他ノ一ヲ惡運ト曰フ保險契約ノ目的トスル所ハ善運ニ非スシテ惡運ナリ茲ニ保險契約ト同シク運命ニ依賴セル契約アリ賭博即チ是ナリ賭博契約ノ履行ハ運ニ因リテ行ハルモノニシテ此點ニ於テ委運契約ト謂フコトヲ得然レトモ通常委運契約ト云ヘハ保險契約ヲ指シ之ヲ賭博トセサルカ如シ而シテ賭博ハ善運ヲ目的トスル所業ニシテ此點ニ於テ保險契約ト異ナレリ

二 保險契約ハ賠償契約ナリ

保險契約ハ損害ノ賠償ヲ主眼トス故ニ損害ナキ所ニ保險契約ナレ例ヘハ右

ノ火災保險或ハ水害保險ト云フカ如シ保險契約カ賠償契約ナルコトハ古來異論ナク認メラレタルモノナレトモ近來ニ至リ保險契約ノ或モノハ賠償契約ニ非ストシ單純ナル支拂ノ契約ナリトセラルル事アリ予ハ其真意ヲ解セスト雖モ想フニ保險契約ニ損害ヲ賠償スルニ非サル種類ノ契約アリ例ハ生命保險ノ如キ人ノ死亡ハ損害金錢上ノニ非ス又疾病保險ニ於ケル疾病ハ損害ニ非ス是等ニ對シテ保險金ヲ支拂フハ損害ノ賠償ニ非スシテ條件ニ際會シテ支拂ヲ爲ス約束ナリト云フカ如シ此說ハ獨逸ニ始マリ近頃米國ヘモ傳播セリ我國ニ於テモ之ヲ採用スルノ傾向熾ナラントス若シ此ノ如キ說ヲ認ムルニ於テハ前節ニ述ヘタル保險契約ノ定義ハ直チニ破壞セラルヘキモノニシテ予ノ大ニ悲シム所ナリ何トナレハ生命保險ニ於ケル死亡疾病保險ニ於ケル罹病等ハ明カニ損害ノ原因タリ得ルモノニシテ又明カニ金錢ニ見積リ得ヘシ例ヘハ他ノ過失ニ因リテ身體ノ一部分ヲ損傷セラレタルトキハ吾人ハ損害ノ賠償ヲ請求シ得ルニ非スヤ死亡ニ於テモ亦然リ何カ故ニ此損害ノ賠償ヲ認メテ生命保險ニ於ケル損害賠償ヲ認メサルヤ又實損ヲ認メ難

シト云フ說アラシカ縱令假損ニセヨ金錢ヲ以テ代ヘ得ヘキモノタル以上ニ損害賠償ノ契約ト謂フヲ可ナリト信ス

三 保險契約ハ雙務契約ナリ

保險契約ハ當事者ノ雙方ニ或義務ヲ發生セシメ一方ノ義務ハ他ノ權利タリ他ノ權利ハ一方ノ義務タリ即チ甲ハ保險金支拂ノ義務ヲ負ヒ乙ハ保險料支拂ノ義務ヲ負フ而シテ一方ノ義務ノ怠リハ他ノ義務ヲシテ果スニ及ハザラ

四 保險契約ハ有償契約ナリ

保險契約ノ價值ハ保險者カ損害填補ノ責ニ任シ損害ノ發生ニ當リテ保險金ヲ支拂フノ保證力ニ在リ而シテ之ニ對シテ保險料ト稱スル報酬ヲ受クルモノニシテ此點ニ於テ有償契約ノ一種類タリ

五 條件附ノ契約ナリ

保險契約ハ條件ヲ以テ締結セラレ存在シ且ツ履行セララルル點ヨリシテ條件附契約ト稱セラルル例ヘハ契約ヲ締結スル前ニ被保險者ノ側ニ陳示ノ義務ア

リ即チ契約ニ必要ナル事項ヲ陳述セサルヘカラス而シテ契約ハ此事項ヲ眞實トシテ締結セラルルカ故ニ此事項ハ條件ト謂フコトヲ得又保險契約成立ニ先テテ保險料ノ決定ニ錯誤ナキコトヲ條件トスルカ如キ又保險金支拂ノ場合ヲ限リ或一定タル危險ノ發生ニ非サレハ賠償ヲ爲サス例ヘハ共同海損ニ對シテ賠償ノ特約ヲ結ハサル條件ヲ設クルカ如キ又或一定ノ場所ニ於ケル損害ニ對シテノミ賠償ヲ爲スコトヲ約シ得ルカ如キハ條件附ノ契約ト謂フコトヲ得

六 對人契約ナリ

保險契約ハ其如何ナル種類ナルヤヲ問ハス物ニ對スル契約ニ非ズシテ人ニ對シテ成立スルモノナリ其意ハ保險セラレタル物件若クハ人身ヲ填補スルコトヲ必要トスルニ非ズシテ契約者ニ對シテ金錢上ノ義務ヲ果セハ足レリ即チ火災保險ニ於テ受取リタル保險金ヲ燒ケタル家屋ノ新築ニ投セスシテ遊蕩ニ費スモ又他ノ方法ニ使用スルモ保險契約ノ效力ニ影響セス又生命保險ニ於テ保險契約ヲ對人契約ニ非ストセハ身體其物ヲ新造セサルヘカラス

七 隨意契約ナリ

保險契約ハ別ニ形式ヲ要セス隨意ノ方法ニ依リテ締結スルコトヲ得是レ形式的ニ隨意契約タル所以ニシテ又契約ノ包容ニ於テモ當事者隨意ニ之ヲ決定スルコトヲ得勿論隨意ニ約束スル所ノ條件ハ法律ニ違反スルモノタラサルヘキモノニシテ例ヘハ火災保險ニ於テ自火ヲ賠償セス漏鑪ノ破裂ヲ賠償セス又ハ雷火若クハ地震ニ起因セル火災ハ賠償セスト云フカ如キ種種ノ條件ヲ當事者間ニ於テ隨意ニ決定スルコトハ毫モ差支ナシ但シ保險金受取人ヲ生命保險親族以外ニ定ムルト云フカ如キ約束ハ我商法ニ依レハ公安ニ反スル約束ナルカ故ニ此ノ如キ契約ハ無効ナリトセサルヘカラス

八 諾成契約ナリ

保險契約ハ當事者ノ合意アルト同時ニ成立スルモノニシテ通常習慣トシテ行ハルル所ノ第一回保險料拂込ノ事實ハ敢テ契約成立ノ要件ニ非ス

第三節 保險契約ノ要素

保險契約ノ要素ハ第一被保險利益第二保險料第三危險第四期間はナリ

第一款 被保險利益

保險契約ノ目的ハ被保險者ノ有スル財産上ノ利益ヲ保護スルニ在リ此利益ヲ被保險利益ト稱ス即チ甲カ其所有スル所ノ家屋ニ付テハ財産上ノ利益ヲ有スルコト勿論ニシテ縱令所有セスシテ占有スル場合ト雖モ其占有スル關係ノ限度ニ於テ或範圍ノ利益ヲ有スルト謂フヘク或ハ他人ヨリ寄託ヲ受ケタル物品ニ付テハ縱令利益ヲ有セスモ其物カ自己ノ手中ニ於テ損傷スレハ損害ヲ負擔セサルヘカラサルカ故ニ受託物ニ付テハ明カニ利害ノ關係ヲ有スト謂フヘシ此利害ノ關係ハ即チ財産上ノ利益ヲ有スト謂フヘキモノナリ故ニ物ノ所有ヲ占有者受託者等ハ其物ニ付テハ財産上ノ利益ヲ有スル者ニシテ其利益ハ保險契約ノ目的ト爲スコトヲ得ル所ノモノナリ故ニ之ヲ被保險利益ト稱ス又人類

ニ於テモ親ハ子ノ身體ニ付テハ財産上ノ利害關係ヲ有シ妻ハ夫ノ身體ニ付テハ他親族互ニ財産上ノ利益ヲ有スルコトハ敢テ深遠ナル理由ヲ以テ説明セサルモ明カニシテ民法ニ於テ親族互ニ養料ヲ給スルノ義務ヲ規定セルカ如キヲ見テモ互ニ金錢上ノ利益ヲ有スルコトヲ想像スルヲ得ヘシ而シテ此金錢上ノ利益ハ保險ニ付セラルヘキ利益ニシテ又被保險利益ト謂フコトヲ得

被保險利益ニ付テハ歐米各國ノ法律ニ於テ頗ル精密ナル規定アリ英國ノ賭博條例等ニハ一一其例ヲ舉ケテ嚴重ナル被保險利益ヲ定メタリ例ヘハ質權者ハ質物ニ付テ其質物カ未タ執行ノ手續ヲ經サル間ニハ被保險利益ヲ有セザレトモ既に執行セラレタル後ニハ被保險利益ヲ有スト定メ或ハ受託者宿屋待合等ノ主人カ其客ノ品物ニ付テ被保險利益ヲ有スル場合等ヲ規定セルカ如シ又英國ニ於テ妻ハ夫ノ身體ニ付テ被保險利益ヲ有ストモ夫ハ妻ノ身體ニ付テ被保險利益ヲ有セス子ハ親ノ生命ニ付テ被保險利益ヲ有ストモ親ハ幼者ノ生命ニ付テ被保險利益ヲ有セス又縱令有スルモ年齡ニ由テ差異ヲ設ケタルカ如キハ被保險利益ニ付テ考察ヲ運ラシタルノ結果ナリ現新商法ニ於テハ其第三百

八十五條ニ「保險契約ハ金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ニ限リ之ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得」ト云ヘル單純ナル規定ヲ設クル外一モ被保險利益ニ付テ定ムル所ナシ故ニ實際ノ場合ニ臨ミテ疑義ヲ生スルコト少カラスト考フ況ヤ此規定ハ損害保險ノ規定ニシテ生命保險ニ於テ見ルコトヲ得ス又其他ノ保險ニ準用スルコトヲモ定メラレタルカ故ニ單ニ損害保險ノ被保險利益ノ一解釋ト見ラルノ外一般保險契約ノ上ニ頗ル不満足ナル感ヲ起サシム

保險契約ハ被保險利益ヲ保護シ其損傷消滅ヲ填補恢復スルノ外ニ出ヅルコト能ハサルモノナルカ故ニ保險者ハ被保險利益ノ價額以外ニ保險金額ヲ契約シ又ハ賠償ヲ爲スコトヲ得ス商法第三百八十六條ニ「保險金額カ保險契約ノ目的ノ價額ニ超過シタルトキハ其超過シタル部分ニ付テハ保險契約ハ無効トストアリ是レ即チ被保險利益以外ノ契約ヲ認メサルノ規定ニシテ元來此ノ如キ契約ハ公安ニ反スル點ヨリ全然無効ト爲スヲ當然トスト雖モ便宜上超過ノ部分ニ付テノミ無効ト看做シテ有益無害ノ方法ヲ許セルナリ保險金額カ保險價額ニ超過シタル場合ハ特ニ之ヲ超過保險ト稱ス此場合ハ契約ノ締結ニ際シテ起

ル所ノモノナレトモ契約ノ履行ニ亘リテ保險者カ保險價額以上ノ賠償ヲ爲ス場合ナキヲ保セス此ノ如キ場合ニハ既往ニ遡リテ契約ヲ無効トスルノ必要アリト思惟スレトモ我商法ニハ其規定ナシ

同一ノ目的ニ付キ數箇ノ保險契約成立シ一ノ被保險利益ニ對シテ數多ノ保險者アル場合アリ之ヲ重複保險ト稱ス重複保險ニ就テハ左ノ數則ニ從フヘシ一 重複保險ノ爲メニ總保險金額カ保險價額ニ超過シタルトキハ超過シタル部分ハ無効タルコト勿論ナリ

二 重複保險カ同時ニ成立シタル場合ニハ各保險者ノ賠償スヘキ金額ハ各自ノ保險金額ト總保險金額ノ割合ヲ計算シテ保險價額ヲ分償スルモノトス但シ同日ニ締結シタル契約ハ同時ニ爲シタルモノト看做ス第三八七條

三 重複保險カ時ヲ異ニシテ締結セラレタル場合ハ先ノ保險者先ツ損害ヲ負擔シ以テ保險價額ヲ充タシタル場合ニハ後ノ保險者ハ賠償ノ責ヲ免ルルモノニシテ此場合ニハ後ノ保險者ハ單ニ前ノ保險者ノ豫備タル如キ狀況ヲ呈ス若シ又前ノ保險者ノ賠償スル所ノ保險價額ニ充タサル場合ハ後ノ保險者其

不足分ヲ負擔ス

重複保險ヲ利用セテ被保險者カ賭博の行爲ヲ行ハントスルヲ防ク爲メハ重複保險ノ事實ヲ被保險者ニ一通知セシムルノ義務ヲ被保險者ニ強制スルノ必要アリ然ルニ我商法ニ於テハ其規定ヲ缺ケリ勿論重複保險ニ於テ保險金額カ保險價額ニ超過シタル場合ハ超過保險ノ原則ニ依リ超過分ハ無効ナルコト商法ノ規定ニ依ルモ明カナレトモ重複保險ニ於ケル超過ノ事實ヲ明カニスルニハ被保險者ニ通知ノ義務ヲ負ハシノサレハ各被保險者之ヲ發見スルヲ得サルヲ以テ當然トモナルヘカラス故ニ實際ニ於テハ被保險者カ契約ノ約款ニ於テ重複保險タル事實ヲ告ケサル契約ハ無効ナリト規定シ之ニ依テ契約ヲ締結ス一ノ被保險利益ニ付テ數箇ノ保險契約カ重複シテ締結セラレル點ニ於テ重複保險ニ似タルハ再保險ナリ再保險ハ又戻リ保險トモ曰フ既ニ説明スルカ如ク一ノ利益ニ付テ保護ノ責任ニシタル被保險者カ其責任即チ自己ノ被ルコトアルヘキ損害ヲ他ノ被保險者ニ保護セシメントスルモノニシテ保險ノ目的ハ常ニ復用タリ即チ原保險ノ目的ハ或ハ物件ト人トノ關係タリ或ハ人ト人トノ關係タ

ル等ノ相違アルニモ拘ラス再保險ニ於ケル被保險利益ハ常ニ無形ナル債權ノ關係タリ再保險ノ目的タル利益ノ包容ハ必スシモ原契約ト同一ナラス例ヘハ保險金額ノ差異アルコトアリ即チ原契約ノ金額ハ千圓ナルモ其中五百圓ヲ再保險ニ付スルコトアリ又例ヘハ危險ノ一部ヲ條件トシテ付スルコトアリ即チ火災保險ニ於テ原契約ニハ總テノ種類ノ火災ニ對スル賠償ヲ約スルモ再保險ニ於テハ單ニ類焼ノ危險ヲ約シ又ハ單ニ自火ノ危險ヲ約スルカ如シ又生命保險ニ於テ原保險ハ養老保險ナルモ再保險ハ定期保險ナルヲ妨ケサルカ如シ再保險ハ總テ原保險ヲ基礎トスルカ故ニ原保險カ無効ナル場合ハ再保險モ亦無効ナリ

再保險ハ保險ノ進歩シタル外國ニ於テハ殆ト如何ナル保險ノ種類ニモ應用セラルト雖モ最モ盛ナルハ海上火災ノ保險ニ在リ再保險會社ナルモノアリテ單ニ各會社ノ再保險ノミヲ契約スルニ及ヘリ再保險ノ保險料ハ原保險ノ契約ノ包容ト同一ナリトシテ通常原保險ニ於ケル保險料ト同一ナリトス何トナレハ再保險ハ自己ノ華主ヲ他ニ分與スルト云フ趣意ヨリハ自己ノ危險ヲ他ニ負

擔セシムルト云フ趣意ニ出テタルモノニシテ隨テ原保險料ヨリハ寧ロ高キ保險料ヲ拂フヲ可ナル場合アリ然レトモ再保險ハ通常保險者間ノ一致協力及ヒ德義等ヲ基トシテ行ハルルモノナルカ故ニ或場合ニハ同一ナル保險料ヨリハ寧ロ廉ニ引受クルコトアリ

重複保險ニ似テ而モ或相違ノ點ヲ有スルカ故ニ保險會社ノ習慣上別ノ言語ヲ以テ表ハサル所ノ共同保險ナルモノアリ兩者ノ差異ハ前者ハ總保險金額カ保險價額ヲ超過スル場合ヲ云ヒ後者ハ保險者カ保險價額ヲ共同分擔スルノ點ニ存ス例ヘハ千圓ノ保險價額アルモノヲ五人ノ保險者カ二千圓宛ノ保險金額ニ依テ覆フカ如シ保險金額カ保險價額ニ充タサル場合ハ其殘餘ニ付テハ被保險者自身体カ共同保險ニ進入セリト謂フヲ可ナリ勿論被保險者ハ自身ニ保險者タルニ非サレトモ自己ノ利益ハ自己カ保護シ自己ノ損害ハ自己カ賠償ノ責任スルト云フ道理ヨリ保險セラレサル部分ニ付テハ自己自ラヲ保險者ノ地位ニ置ケルト考ヘテ可ナリ商法第三百九十一條ニ保險價額ノ一部ヲ保險ニ付セタル場合ニ於テハ保險者ノ負擔ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リ

テ多シト雖モ手形ニ原因ヲ必要ナリトシタル舊說ヲ排斥シタル效力ノ著シキコトハ掩フヘカラサルモノトス一千八百四十七年ニ至リ氏ハ索逕手形法ヲ起草シ之ヲ實行セントシタリ一千八百四十八年ノ發布ニ係ル獨逸現行手形法ノ如キモ氏ノ思想ニ依ルモノ蓋シ尠シトセス

以上ハ手形法制沿革ノ大要ナリ次ニ我國手形法ノ沿革ヲ述フル順序ナリト雖モ如何セン我國手形法ノ沿革ハ此講義ニ於テハ殆ト之ヲ述フルノ價值ヲ見サルコトヲ何トナレハ我國ニ於テハ古來大坂ニ於テ兩替手形カ盛ニ行ハレタリト雖モ其形跡ニ付キ十分證據トスヘキ記錄ニ乏キノミナラス我國舊手形法ハ全ク佛國主義ニ據リ舊商法ハ佛獨兩主義ノ折衷ニ成リタルモノニシテ改正商法ハ獨逸主義ニ據リタルモノナルカ故ニ既ニ述ヘタル歐洲ノ手形沿革ハ探テ以テ我手形法ノ沿革ト爲スコトヲ得ヘケレハナリ

現世界ニ行ハル手形法ノ主義ニ二アリ其一ハ第二期ニ於ケル佛法主義ニシテ歐洲ニ於テハ佛國ヲ始メトシテ蘭西葡希土リユクサンブルグ等ノ諸國歐洲以外ニ於テハ埃及巴西共和國アルゼンチニスルビ等ノ諸國之ヲ採用セ

リ其ニハ獨逸法系ニ屬シ最近ノ立法例ハ概シテ之ニ據ル故ニ新ニ手形法ヲ制スル國ニ於テハ多ク之ヲ採用セリ但シ佛法ニ比スレハ其實施ノ日尙ホ淺キカ故ニ之ニ據ルモノ佛法主義ノ法律ニ比スレハ少數ニシテ埃國手形法瑞典債務法其他「スカンチナー」諸國ノ法律及ヒ我改正商法等其最ナルモノトス此ノ如ク二派儼然トシテ相對立シ行ハルト雖モ佛法主義ハ漸漸退却シテ獨逸主義ニ讓ルノ傾向アルヲ免レサルナリ例ヘハ全然佛法ヲ採用シタル白耳義國ノ如キモ一千八百七十二年ノ改正ニ於テハ獨逸主義ヲ採用セル如キ及ヒ伊國商法ハ純然タル佛國商法ナリシモ一千八百八十一年ノ改正商法手形ノ部分ニ於テハ獨逸主義ヲ加味シ其主要ナル點ヘ全ク獨逸法ノ主義ト異ナルコトナキカ如シ又一千八百八十二年ノ英國手形法モ亦獨逸法ト其主義ヲ同ウシ北米加那太諸州及ヒ印度ニ於テモ行ハル是ニ由テ觀レハ新立法例ハ獨逸手形法主義ニ傾キツアリト謂フモ蓋シ過言ニ非サルヘシ

手形債務ニ關スル學說モ亦種種ノ變遷ヲ經テ今日ニ至レルモノナリ今左ニ之ヲ略説スヘシ

第十七世紀及ヒ第十八世紀末ニ至ルマテハ學者ハ主トシテ手形振出人ト手形受取人間ノ關係ヨリ手形債務ノ性質ヲ論シ其論據ハ一樣ナラザリシト雖モ手形債務ハ契約ニ因リテ成立スト云フニ至リテハ異論ナカリキ蓋シ此時代ニ於テハ羅馬法盛ニ行ハレ當時ノ學者ハ手形債務ヲ論スルニ付テモ亦其原理ニ據リテ之ヲ説明セント試ミタリ然レトモ手形債務ハ如何ナル契約ニ原因スルモノナルヤノ問題ニ至リテハ議論一定セス或ハ之ヲ以テ一ノ交換契約ナリト論シテ曰ク手形振出人ハ手形受取人ニ對シ其受取人カ振出人ニ交付スル金錢ニ非ナル金錢ヲ他ノ場所ニ於テ與フルコトヲ約シ其契約履行ノ爲メニ交付スルモノハ即チ手形ナリ故ニ手形債務ハ一種ノ交換契約ヨリ生スルモノナリト蓋シ當時ニ於テハ或ハ適當ナリシ說ナラン何トナレハ前ニモ述ヘタル如ク十七八世紀ニ於テハ手形ハ兩替ノ爲メニ行ハレタルモノナレハナリ然レトモ手形ハ相場ニ因リテ受取人カ給付スル金額ト其受取額トニ相違ヲ生スルカ故ニ交換説ニ據ルモ適切ニ説明スルコト能ハザリキ是ニ於テカ手形債務ハ一ノ買賣契約ニ基クモノナリト説明スル者アリ此說ハ手形受取人カ甲地ニ於テ振出人

ニ交付スル金額ハ即チ代價ニシテ其乙地ニ於テ受取ルヘキ金額ハ賣買ノ目的
ナリ手形ハ其證明ノ方法トシテ之ヲ交付スルモノナリト云フニ在リ蓋シ亦常
時ニ於テハ必スシモ不適當ナル説明ニ非サリシナルヘシ然レトモ之ニ據ルモ
尙ホ允當ナラサル弱點ヲ存シタルヨリ學者或ハ手形債務ヲ以テ賣買ニ類スル
一種ノ無名契約ナリト論シ其契約ハ合意ニ因リテ直チニ成立スルモノナリト
曰ヘテ此說ニ據レハ手形行為ハ當事者ノ一方タル振出人カ相手方タル受取人
ヨリ一定ノ金額又ハ相當對價ヲ受取リ手形ノ受取人又ハ其指定シタル者ニ對
シテ當事者間ニ豫定シタル時及ヒ場所ニ於テ一定ノ金額ヲ支拂ハシムルコト
ヲ約スル契約ナリト云フニ在リ故ニ所謂手形上ノ債務ハ手形ノ振出人カ支拂
ハシムヘキ金額支拂ノ時期支拂ノ場所及ヒ其手形受取人ヨリ受取ルヘキ金
額ニ付キ合意アレハ直チニ成立シ他ニ又手續ヲ爲スコトヲ要セス手形其物ハ
單ニ成立シタル合意ヲ實行スル方法即チ債權ノ證明書タルニ過キス故ニ振出
人カ未タ手形ノ對價ヲ受取ラサルトキハ手形上ノ債務ヲ負フコトナセト謂ハ
サルヘカラス別言スレハ手形振出人カ其對價タル金額又ハ之ニ相當スル對價

ヲ受取ラサル場合ニ於テハ振出人ハ手形債務ヲ負擔セストノ抗辯ヲ爲スコト
ヲ得ルカ故ニ手形ノ振出ニ對スル對價ノ辨濟ナシトノ事實ハ手形債務ノ履行
ヲ拒絕スル抗辯ノ理由トシテ主張スルコトヲ得ヘキモノナリシ例ヘハ爲替手
形ノ所持人カ訴テ以テ振出人ニ對シ償還請求ヲ爲ス場合ニ於テ若シ手形對價
ノ支拂ナカリシトキハ振出人ハ之ヲ理由トシテ償還請求ニ應ゼサルコトヲ得
ルカ故ニ所持人ハ此訴訟ニ於テ勝訴者タランニハ對價ノ支拂アリタルコトヲ
立證セサルヘカラス而シテ此立證ノ困難ナルコトハ多言ヲ待タスシテ知ルヘシ
手形債務ハ契約ニ因リテ生スルモノナリト説明スルトキハ常ニ其生シタル原
因ノ存否ニ由リテ手形權利ノ實行ヲ妨ケラルル危險アルヲ免レサルカ故ニ其
必然ノ結果ハ手形ノ流通ニ大ナル妨害ヲ生セサルコトヲ得サルヲ以テ此說ヲ
唱フル學者ト雖モ或ハ對價ニ對スル抗辯ハ之ヲ許サスト主張スル者アリレハ
リ然レトモ前說ノ如ク合意成立說ヲ認ムル以上ハ手形ノ對價給付ノ不履行ヲ
以テ抗辯ノ理由ト爲スコトヲ認メサルコトヲ得サルハ必然ノ結果ナリトス
各意說ハ當時頗ル世ニ行ハレタルニ拘ラス實際ニ於テハ手形權利ノ行使ハ常

三 手形ニ依リテノミ之ヲ爲シタル有様ナリシカ故カ十八世紀ノ終リニ至リテハ振出人及ヒ受取人間ノ合意ハ手形債務ノ條件タルニ過キス手形債務ハ書面ヲ以テスルニ非サレハ成立セストノ說世ニ行ハルルニ至レリ此說ニ據レハ手形債務ハ書面契約ニ因リテ生シ振出人ト受取人トノ間ニ於テ手形ノ金額振出人ニ支拂フヘキ對價及ヒ手形金額支拂ノ時期ニ付キ意思ノ合致アルモ若シ手形面ニ之ヲ記載セサルトキハ手形上ノ法律關係ハ成立セサルナリ故ニ振出人及ヒ受取人間ノ合意ハ手形債務ヲ成立セシムル前約ナリト謂フヘシ其前約ハ手形債務ヲ發生スルモノニ非スシテ手形債務ハ振出人カ手形ヲ作成シ之ヲ受取人ニ交付スルニ因リテ成立スルモノナリトセリ是レ書面契約說ノ要領ナリ手形債務ハ合意ニ因リテ直チニ成立スト云フ前說ニ比スレハ頗ル便宜ニシテ且ツ進歩シタルモノナルコト勿論ナリ此說ニ據レハ振出人ハ手形上ノ義務ヲ有スルヤ否及ヒ手形ヲ振出スニ付キ其對價ヲ受取リタルヤ否ノ點ノ如キハ固ヨリ之ヲ問フコトヲ要セス唯振出人カ果シテ其手形ヲ任意ニ作成シタルヤ否ヤヲ定ムルコトヲ要スルノミ若シ振出人カ任意ニ手形ヲ作成シ之ヲ受取人ニ

交付シタルトキハ其手形ヲ作成スルニ付キ受取ルヘキ對價ヲ受取ラザリトキト雖モ手形上債務ヲ負擔スル者ト謂ハサルヘカラス換言セハ手形債務ハ對價ヲ原因トシテ生スルモノニ非スシテ法律ノ方式ニ從ヒ手形ヲ作成シタルニ因リテ生スルモノナリ故ニ對價ノ給付アリシヤ否ノ問題カ重要ナル關係ヲ有スルコトハ振出人ト受取人間ニ限リ其他ノ者ニ及ハサルナリ振出人ハ受取人以外ノ手形所持人ニ對シテハ對價不履行ノ抗辯ヲ爲スコトヲ得ス蓋シ手形債務ハ要式行為タルニ因リテ生スル自然ノ結果ニ外ナラス手形作成ノ原因モ亦手形債務ノ成立ニ關係セサルヲ以テ手形債務ノ負擔ハ或ハ貸借上ノ債務履行ノ爲メナルト或ハ交換ノ爲メナルト或ハ又買賣履行ノ爲メナルトヲ問フコトヲ要セサルナリ蓋シ書面契約說ハ手形ノ實際上并ニ學問上ニ於ケル一大進歩ナルノミナラス近世手形上ノ學說ニ關スル階梯ヲ成タルモノト謂フヘキナリ以上述フル如ク手形債務ハ手形ニ依ル當事者間ノ意思ノ合致ニ因リテ成立スルモノナリトノ說ニハ十九世紀ノ初ニ至ルマテ殆ト何人モ敢テ疑ヲ容レサル所ナリキ然ルニ此說ニ反對ノ意見ヲ公ニシ之ヲ立法例ニ實行セントシタル者

ハ前ニ示シタル索逋王國ノ「カール・アイネルト」氏ハ紙幣又ハ銀行兌換券ノ流通スル實況ヲ觀察シ其理ヲ推シテ手形ニ應用セントノ希望ヲ抱キ十九世紀ニ要スル手形法ナル論文ニ依リテ其思想ヲ發表セリ其要領左ノ如シ

凡ソ商人カ信用ヲ有スルトキハ恰モ國家カ紙幣ヲ發行シ銀行カ兌換證券ヲ發行スルカ如ク私ニ作リタル紙幣ヲ發行セテ之ヲ流通セシムルコトヲ得ヘシ其紙幣カ一定ノ時期ニ於テ相違ナク硬貨ト交換セララルニ於テハ之ヲ受取ル者ハ紙幣又ハ銀行ノ兌換券ヲ受取リタル場合ニ同シテ容易ニ之ヲ流通セシムルコトヲ得ヘシ商人ノ發行スル手形ハ即チ商人ノ紙幣ナリト謂フヘシ抑モ手形ノ振出人カ自ラ支拂ヲ爲スコトヲ約スル(約束手形ト他人ヲシテ支拂ハシムルコトヲ約スル爲替手形ト)問ハス商人間ニ於テハ其振出シタル手形ヲ見ルコトハ恰モ現金ノ如シ例ヘハ物品ヲ賣渡シタル場合ニ賣渡人ハ其代價トシテ手形ヲ受取ルコトヲ拒マス未タ手形ヲ現金ニ替ヘサル前ト雖モ代價ハ恰モ支拂ハレタルモノノ如ク看做サルハ商人間ニ於ケル一般ノ慣習ナリ蓋シ此慣習ハ手形面ニ記載シタル金額カ一定ノ時期一定ノ場所

ニ於テ異議ナク支拂ハルヘシトノ信用ヲ埃テノミ實際ニ行ハルヘキモノニシテ若シ其信用ニ缺タル所アルトキハ手形ハ其效用ヲ爲スコト能ハス而シテ此信用ニハ手形債權者トシテ手形ヲ所持スル者ノ權利ハ其以前ノ所持人ト手形債務者トノ關係ニ因リテ妨ケラルルコトナシトノ規定ヲ要ス換言スレハ商人間ニ於テ手形ヲ授受スルコトハ恰モ紙幣又ハ兌換券ヲ取扱フ如ク之ヲ交換シテ毫モ疑ヲ生セザラシムルニハ手形法ノ各所持人ハ獨立ナル債權ヲ有スルモノニシテ其前者ノ債權ヲ承繼スルモノニ非スト云フ規定ヲ要ス然リ而シテ此趣旨ハ近世ノ手形法ノ認ムル所ニシテ契約ニ因リテ手形債務ヲ生スルモノナリトノ説ト相容レサルナリ尙ホ別言スレハ近世ノ手形法ニ於テハ手形債務ハ一方行爲ナルコトヲ認ムルモノナリ手形ノ振出人ハ唯其直接受取人ニ對シテノミ手形金額ヲ支拂ヒ又ハ支拂ハシムヘシトノ意思表示ヲ爲スモノニ非スセテ廣ク公衆ニ對シテ其意思表示ヲ爲スモノト謂ハサルヘカラス若シ之ニ反シテ手形債務ハ合意ニ因リテ生スルモノナリトノ説ニ從フトキハ第一裏書讓受人及ヒ其後ノ所持人カ獨立シテ手形上ノ債權

ヲ實行シ得ル所以ヲ説明スルコト能ハサルヘシ何トナレハ手形債務ハ契約ニ因リテ生スルモノトセハ手形ノ移轉アル場合ニ各所持人ハ其前所持人ノ債權ノ分量ヨリ大ナル權利ヲ有スルノ理ナキカ故ニ其所持人ノ債權ハ其前所持人ト振出人若クハ其他ノ支拂人トノ關係ニ因リ影響ヲ受クルモノト謂ハナルコトヲ得サレハナリ是ヲ以テ近世ノ手形法ニ於テハ前述ノ如ク手形所持人ノ債權ハ其前者ニ對スル手形債務者ノ抗辯事由ニ由リテ妨ケラルコト無シトノ説ヲ是認スルニ至レリ云云

蓋シ「アイチルト氏」ノ思想ハ近世手形法理ニ一大革新ノ動機ヲ與ヘタルコト論ヲ埃タサレトモ氏ノ説モ亦未タ完全ナルモノト稱スルコト能ハス

第一 紙幣ハ其本質ニ於テ交換ノ媒介タルモノナレトモ手形ハ其實債權ヲ證明スルモノナリ加之手形ハ定マリタル人ノ用ニ供スル爲メ作成スルモノナルヲ以テ銀行兌換券ノ如ク同時ニ數多ノ發行ヲ爲スコトナレ然ルニ彼此同一ノモノトシテ之ヲ論スルコトハ允當ナラス

第二 若シ手形ヲ紙幣ノ如クナラシメンニハ悉ク無記名式ノモノトセテ

ルヘカラス

第三

若シ手形ヲ紙幣ト同一ナリトセンニハ主タル債務者ハ紙幣ニ於ケル發行者ノ如ク常ニ手形ノ振出人ナリト謂ハサルヘカラス然ルニ爲替手形ニ於テハ主タル債務者ハ引受ヲ爲シタル支拂人ニシテ其振出人ニ非ルナリ

此ノ如ク「アイネルト氏」ノ説ハ其基礎ニ於テ誤謬アルカ故ニ一般ニ承認セララルコトナシト雖モ氏ノ説ハ近世手形法理ノ進歩ヲ爲サシメタルコト著シキモノナリ殊ニ手形ノ流通證書タル效用ヲ完ウスル上ニ於テ至大ノ勢力ヲ有シタルコトハ復タ疑ヲ容レサルナリ即チ手形所持人ハ單ニ債權ヲ有スルノミニシテ義務ヲ負フコトナシト云フ法理ノ如キ手形アレハ即チ手形債務アリ而シテ其原因ヲ問フニ及ハストノ説明手形債務ハ手形ノ各所持人ニ對シテ約スルモノナリトノ説明各所持人ノ手形債權ハ獨立ナリ前所持人ノ債權ヲ承繼スルモノニ非ストノ説明又ハ手形ノ能力若クハ偽造變造ノ抗辯ニ制限アルコトノ説明ノ如キ何レモ氏ノ説ニ依リテ明白ナルニ至ルヘキヲ以テナリ

「アイチルト」氏ハ手形ノ單獨行為説ヲ唱ヘテ以テ手形法理上一大革新ノ思想ヲ喚起シタルコト勿論ナルモ從來ノ契約説ハ之カ爲メニ其迹ヲ絶チタルニ非ス反テ益々巧妙ナル論法ヲ以テ單獨行為説ニ對抗シ現今ニ至リテモ此兩説互ニ切磋シテ適ニ雌雄ヲ決セントスルモノノ如シ以下兩學説ノ大要ヲ示サントス

第一 契約説 此説ニ據レハ手形ノ債務ハ手形ノ振出人ト其受取人トノ間ニ於テハ勿論其他ノ所持人ト振出人トノ間ニ於テモ亦意思ノ一致アルニ因リテ成立スルモノナリ然レトモ其成立ニハ一定ノ方式ヲ必要トス即チ振出人ハ法律ノ規定ニ從ヒテ手形ヲ作成シ其意思ヲ以テ受取人ニ之ヲ交付スルニ因リテ成立スルモノナリ故ニ手形ノ作成ト其交付トハ手形債務ノ成立ニ必要ナレトモ交付ニハ別ニ方式ヲ要セス作成シタル手形カ第三者ノ手ニ在リタルトキハ適法ノ交付アリタルモノト看做スヘイト云フニ在リ

蓋シ契約説ヲ維持スルニ最モ困難ナル點ハ振出人ト受取人トノ關係ヲ説明スルニ在ラスヤ受取人以後ノ所持人ト振出人トノ關係即チ直接ノ關係ヲ有セサル者ノ間ニ於テモ尙ホ手形債務ヲ成立スル理由如何ノ點ニ在リ換言スレハ第

テ大ニ學者ノ議論ヲ惹起セタリ獨逸ニ於テ破産ヲ清算ナリト主張スル論者ハ「デルンブルヒ」「ザルヘイ」「ベータッセン」氏等ニシテ其論據ノ(第一)ハ獨逸破産法理由書ニ於テ破産ハ競合シタル總テノ債權者ノ一般的請求ヲ實行セシムルノ手續ニ外ナラス之ヲ以テ破産手續ハ一ノ訴訟ニアラスシテ却テ裁判上ノ監督ノ下ニ於テ支拂ヲ停止シタル債務者ト其總債權者トノ間ニ行フ清算ナリト云ヘリ故ニ破産ハ清算ニシテ訴訟ニアラサルナリ(第二)破産手續進行中ニ生スヘキ訴訟事件ハ之ヲ破産手續ヨリ分離シテ通常ノ訴訟手續ニ依リテ破産手續開始地ヲ管轄スル通常裁判所ノ管轄ニ屬セシメタリ(獨逸第一三四條日本商法第一〇二七條第一〇二八條第一〇二九條)訴訟中……故ニ破産手續ハ訴訟事件ニ屬セスシテ却テ非訟事件ニ屬スヘキモノナリト云フヘシ隨テ破産ハ一ノ清算ニシテハ唯清算ニ付キ指揮及ヒ監督ヲ爲スニ止マルノミト云フニ在リ

破産ヲ以テ訴訟ナリト主張スル論者ハ「バール」「ヘルマン」「コーレル」「フツチング」シユルツエ「ワイルモスキ」氏等ニシテ其論據(第一)ハ破産ハ通常裁判所ノ管轄ニ屬

シ獨逸裁判所得成法第二條又獨逸裁判所得成法第二十二條及ヒ第百六十一條ノ規定ニ明言セル訴訟法ハ民事訴訟法ノ外ニ破産法ヲ包含セルモノナルコトハ獨逸ノ裁判所得成法理由書ニ依ルモ明白ナリ故ニ破産ハ訴訟事件ニ屬スルモノト云フヘシ(第二)民事訴訟ト國家カ自己防衛ヲ制限シタル結果トシテ強制力ヲ以テ私權ノ確認及ヒ實行ノ目的ヲ達スルカ爲メニ設ケタル制度ナリ隨テ民事訴訟ニハ爭訟ノ存セルコトヲ必要トセサルハ疑ナキ所ナリ而シテ裁判所ノ民事訴訟ニ關スル行爲ヲ指示スル訴訟事件ハ私權ノ確認及ヒ實行ヲ目的トスルヲ以テ國家ノ強制力ヲ缺クヘカラサルノ要件トシ訴訟事件ニ相對スル非訟事件ハ將來ノ危險ニ對スル私權ヲ確保スルヲ目的トスルカ故ニ國家ノ強制力ノ必要ナキヤ當然ナリ破産ハ債權者ノ請求及ヒ其範圍ヲ確認シ且ツ必要ナル場合ニハ強制力ヲ以テ之カ實行ヲ得セシムルヲ目的トス故ニ破産ハ民事訴訟ノ一部分ニ外ナラスト云フニ在リ

我國法ノ下ニ於ケル破産事件ハ裁判所得成法第二十八條明治二十三年法律第六十六號商事非訟事件印紙法ニ破産ニ關スル條項アルヨリシテ文理解釋上非

訟事件ナリト論決スルコトヲ得サルニアラサルモ余輩ハ論理解釋上破産ハ訴訟事件ナリト主張スルヲ正當ト認ム蓋シ前述セシ第二ノ論據ニ依リテ破産ハ其性質上債權者團體ノ共同利益實行ノ爲メ法律上規定シタル民事訴訟ノ一部ナリト云フハ極メテ學理ニ適シタル見解ナレハナリ是レ破産ハ一般の強制執行ナリト云フ所以ナリ

獨逸ノ「コーレ」ハ其著破産法論ニ於テ破産關係ハ其性質上一ノ訴訟的及ヒ執行的關係ニシテ多數債權者ノ互ニ競合セル利益ヲ調シ共通の公準ニ基キ各債權ノ金錢的執行ヲ得セシムル特質ヲ以テ存在スルモノナリト云ヒ又「バール」ハ「ホルツ」エンドルフノ法學通論中ニ於テ破産ハ債權者ニ其有セル債權ニ相當スル満足ヲ得セシムルカ爲メニ債務者ノ總財産上ニ行フ一般の強制執行ナリト云ヒ以テ巧ミニ破産ノ性質ヲ表彰シタリ

(ロ) 債權者及ヒ債務者 破産ハ一ノ強制執行ナルカ故ニ債權者及ヒ債務者アルハ當然ナリ破産手續ニ依リテ満足ヲ求ムルコトヲ得ル債權者ヲ破産債權者ト云ヒ財産上ニ破産手續ヲ開始セラレタル債務者ヲ破産債務者即チ破産者ト云

ヲ故ニ破産上ノ債權者及ヒ債務者ハ民法上ノ債權者及ヒ債務者ト同一ナリト
論決スヘカラス尙ホ詳細ハ第二編第一章ニ於テ説明スル所アルヘシ
破産ハ債務者ノ財産ヲ以テ財産上ノ満足ヲ求ムル權利アル總債權者ニ平等ナ
ル金錢的満足ヲ得セシムル手續ナルヲ以テ破産ノ有效ニ行ハルハ法律上債
權者ノ多數ヲ前提要件ト爲スヤ否ヤノ問題アリ

舊ハンノーベル民事訴訟法第六百八條、奧太利破産法第六十六條、千八百六十八
年匈牙利破産法第八十七條、千八百八十一年ハ立法例トシテ佛國ノ巴黎控訴院
ハ千八百三十八年五月三十日ノ判決判決例トシテ債權者一人ナルトキハ破産宣
告ヲ爲スヘキモノニアラスト云ヘリ蓋シ債權者一人ナルトキハ此債權者ハ通
常ノ執行手續ヲ以テ其満足ヲ完ウスルコトヲ得ヘシ隨テ此場合ニ多數債權者
ノ衝突セル利益ヲ調和セシムルノ目的ヲ以テ組織シタル複雜ナル破産制度ヲ
適用スルハ全然理由ナシトノ論理ナルヘシ

智利商法第一三四一條「アルジャンナン商法第一三九五條ハ立法例トシテ又佛
國大審院前ニ示シタル巴黎控訴院ノ判決ヲ破産シタル千八百四十一年三月六

日ノ判決及ヒ獨逸帝國裁判所千八百八十四年一月十一日ノ判決ハ判決例トシ
テ債權者一人ナル場合ト雖モ猶ホ破産宣告ヲ妨ケサル旨ヲ明言セリ現時有名
ナル獨佛多數ノ學者モ亦然リ蓋シ債務者カ其債務ノ支拂ヲ爲スコト能ハサル
ニ當リ二人以上ノ債權者ノ存在ノ證明ナキカ爲メニ豫メ破産手續ノ開始ヲ拒
ミ或ハ二人以上債權者ノ届出ナキカ爲メニ已ニ開始シタル破産手續ヲ中絶ス
ルカ如キハ何等ノ實益アルモノニアラス又債權者一人ナルニモ拘ラス猶ホ破
産手續ヲ開始スルハ實際上無益ナルコトアルヘシト雖モ一旦重ナル審理ヲ盡
シタル後ニ於テ債權者一人タルカ爲メニ破産手續ヲ閉鎖シ他ノ執行手續ニ變
轉セシムルヨリ生スル困難ノ比ニアラサレハ敢テ答ムルノ價值ナシ而シテ債
權者一人ナル場合ニ破産手續ヲ開始シタルトキハ債權者集會及ヒ協議契約ハ
此一人ノ債權者ニ依從スルカ如キ事實ヲ生スト雖モ之カ爲メニ破産宣告ノ申
立并ニ其開始ヨリ取得スヘキ權利ヲ喪失セシムルニ足ラサルナリ故ニ債務者
ノ或行爲ハ債權者ノ爲メニ法律上當然無效ト爲リ或行爲ハ債權者カ之ヲ攻撃
スルヲ得ヘシ(商法第九九〇條乃至第九九二條又協議契約モ總利害關係人殊ニ

届出ヲ爲ササル債權者ニ對シ有效タルヘシ若シ反對ニ論決シテ破産ハ債權者一人ナルトキハ之ヲ開始スヘキモノニアラストセハ債務者ハ自己ノ債權者ニ對スル感情ノ好惡ニ從ヒ或債權者ニハ債務ヲ完済シ損害ヲ受クルコトナカラシメ他ノ一債權者ニノミ無資力ヨリ生スル損害ヲ負擔セシメ以テ破産ノ運命ヲ免レントスルカ如キ弊害ヲ生スルニ至ルヘシ隨テ破産法ハ債權者ノ可能的多數ヲ豫想シタルモノニシテ實在の多數ヲ豫想シタルモノニアラストノ論旨ニ基ケルナルヘシ我破産法ノ下ニ於テモ亦同一ノ論旨ニ基キ同一ノ論決ヲ爲スヘキモノト信ス

(ハ) 平等ナル金錢の滿足 破産ハ各債權者ニ債務者ノ財産上ヨリ平等ナル金錢の滿足ヲ得セシムルヲ目的トスルコトハ前述シタル所ナリ故ニ茲ニ之カ説明ヲ省略スヘシ

(二) 破産法ノ性質 破産法ハ破産手續ニ關スル法規ノ全部ニシテ公法ノ一部分ナリ國家ハ破産法ニ於テ實體的法規ト形式的法規トヲ規定シタリ蓋シ此兩者ハ密接ノ關係ヲ有シテ嚴格ニ之ヲ分割スルコト能ハサレハナリ然レトモ之

カ爲メニ破産法ハ破産手續ニ關スル法規タルノ性質ヲ失ハサルヘシ何トナレハ破産ノ實體的法規ハ破産手續開始ノ法律上ノ前提要件ヲ規定シ又破産宣告ヨリ生スル債權者及ヒ債務者其他利害關係人ニ對スル財産的法律關係ニ關スル効力ヲ規定シタルモノナレハナリ破産關係ハ一ノ訴訟關係ナルコトハ前ニ述ヘタル所ナリ故ニ破産法ハ一ノ訴訟法ニシテ又民刑事訴訟法ト同シク司法權行使ノ形式ヲ規定セタル一ノ公法ナリト云ハサルヘカラス獨逸ニ於テハ破産法カ一ノ訴訟法ナルコトハ先ニ説明セシ所ナリ英國ニ於テハ現行破産法ヲ私法觀セサルコトハ破産制度ノ沿革及ヒ現行破産法ノ特色ニ徴シテ明白ナリ佛國ニ於テハ破産法ヲ私法タル商法中ニ規定シタルカ故ニ形式上之ヲ私法觀シタルモノト云ハサルヲ得ス然レトモ「リオンカン」氏ハ破産法規ハ債務ノ完済ヲ爲ササル債務者ニ對シテ執行ニ關スル立法ノ一部分ヲ爲スト雖モ佛國ハ破産ヲ商人ノミニ適用セタルカ故ニ之ヲ商法中ニ規定シタリト説明セ間接ニ破産法ノ執行法ナル性質論ヲ是認セタルモノノ如シ

第三章 破産法ト他ノ諸法律トノ關係

破産ハ社會の信用ノ失墜ヲ來シ財産ノ管理處分權ヲ喪失シ清算ノ必要ヲ惹起スル故ニ破産法ハ他ノ諸法律ト大ナル關係ヲ有ス家資分散法第五條衆議院選舉法第十四條貴族院令第十條民法第六十八條第一百十一條第三百三十七條第四百六十條第六百七十九條等商法第七十四條第一百五條第二百二十一條第四百五條第四百六條等民事訴訟法第七十九條ノ如キ是ナリ而シテ本章ノ題下ニ於テ特ニ注意セサルヘカラサルハ破産法ト裁判家資所構成法民事訴訟法及ヒ分散法トノ關係是ナリ

(一) 破産法ト裁判所構成法トノ關係

破産法ノ範圍ヲ補充スルモノハ裁判所構成法及ヒ民事訴訟法等ナリ裁判所構成法第二十八條ハ地方裁判所カ破産事件ニ付テ一般ノ裁判權アル旨ヲ規定シテ以テ破産事件ノ事物ノ管轄ヲ定メタリ

(二) 破産法ト民事訴訟法トノ關係

民事訴訟法ハ破産法ヲ補充スルノ法律ナリ破産事件ニハ破産法ニ特別ノ明文ナキ以上ハ類推ニ依リテ民事訴訟法ノ規定ヲ準用セサルヘカラス何トナレハ先ニ述ヘタル如ク破産法ハ民事訴訟法ト同シク民事訴訟ニ關スル法規ナレハナリ而シテ準用ハ甚タ制限セラレタル範圍ニ於テ行ハルモノナルヘシ何トナレハ民事訴訟法ノ法規ハ主トシテ係爭請求權ノ辯論及ヒ裁判ニ關係スルヲ以テナリ詳細ハ形式的破産法規ノ説明ニ譲ル

(三) 破産法ト家資分散法トノ關係

一般的破産主義ヲ認メタル立法ニ於テハ破産ハ非商人ニ對シテモ適用スルカ故ニ家資分散ナル特別制度ノ必要ヲ見ス隨テ此制度ハ商人破産主義ヲ認メタル佛法系國ニ於テノミ認メラレタリ我國ニ於テモ亦商人破産主義ヲ認メタルカ故ニ家資分散ナル制度ヲ認メタリ明治二十三年法律第六〇號家資分散トハ民事訴訟法ノ強制執行處分ニ依リ裁判上公ニ認メラレタル無資力ヲ推定セシムル債務者ノ狀態ナリ家資分散法第一條家資分散トハアラバド民ノ云ヘルカ如ク無資力即チ債務者ノ債務額カ資產額ヲ超過シタル狀態ニアラスシテ却テリオ

シカシ、破産ノ開始ニ依リ、債權者ノ地位ハ、如ク家資分散ハ外形ノ事實ニ依リ無資力ヲ推定セザル状態ナラヘシ、蓋シ人ノ財産的地位ハ容易ニ之ヲ知ルコトヲ得ザルモノナリヲ以テ正備ナル無資力ノ證明ハ之ヲ舉タルコト能ハサルナリ、隨テ若シモ家資分散ヲ無資力ナリト解シタルトキハ家資分散ノ申立ヲ爲ス債權者ニ對シ事實上爲シ能ハサルノ證明ヲ強フルニ至リ、家資分散法ハ實際上殆ト適用ナキ空文ト爲ルニ終ルヘケレハナリ、故ニ家資分散ニ關シテハ強制執行ノ結果即チ金錢的執行ノ不充分タリシ外形ノ事實ニ依リ裁判所ノ認ムルコトヲ得ヘキ無資力ノ推定ヲ以テ足レリト爲ササルヘカラス、是ヲ以テ第一ニ債務者ハ其債務額カ事實上資産額ニ超過スルモ取引者間ニ於ケル信用ノ結果トシテ債務者カ其状態ヲ外形ニ表影セザルトキハ家資分散者ト爲ルコトナレ、然レトモ之ニ反シ債務者ハ其債務額カ事實上資産額ニ超過セザルモ強制執行ノ結果トシテ執行ノ目的ヲ完全ニ達セザルカ爲メニ裁判所カ債務者ノ無資力ヲ推定シタルトキハ債務者ハ家資分散者ト爲ルヘシ、第二ニ無資力ハ債務者ノ總財産ヲ賣却シ又總債權者ノ總債權額ヲ完全ニ知リタル後ニアラヌハ確實ニ明示スルコト

ヲ得サレトモ家資分散ハ無資力ノ推定ナルカ故ニ略等ノ事項ヲ必要トセズ、家資分散者タルヘキ債務者ハ非商人ニ限ルヤ否ヤ佛商法ノ解釋トセラハ「リオカン」ボードリー氏等ハ非商人タルコトヲ明言シ「トマス」氏ハ商人非商人ノ區別ナク民事債務ニ關シ無資力ヲ明示シタルモノナリト云ヘリ、我國法ニ於テハ商人非商人ノ區別ナク總テノ債務者ヲ指示スルモノト云フヘシ、何トナレハ商人ニ對シテハ強制執行ヲ爲スコトヲ得レバナリ、隨テ我國ニ於テハ商人ニ對シ家資分散法並ニ破産法ノ二者併行セザルモ得ト云テベシ、裁判上家資分散ヲ公認スル形式ハ一ノ決定ナリ、故ニ家資分散ハ口頭辯論ヲ經ヌシテ之ヲ公認スルコトヲ得

家資分散ハ民事訴訟法ノ強制執行處分ニ因リ裁判上公認シタル無資力ヲ推定セシムル債務者ノ状態ナルカ故ニ破産ト大ニ其趣ヲ異ニシタリ、第一ニ破産ハ商人ニ限リ適用スヘキモノナレドモ家資分散ハ之ニ反シテ商人及ヒ非商人ニ對シテ行ハル、第二ニ破産ハ一般の強制執行ナルカ故ニ債權者債務者其他ノ利害關係者ニ對シ法律上效力ヲ生ズルモ家資分散ハ個人ノ執行ヲ結果トシテ生

スルモノナルカ故ニ斯ル效力ヲ生スルコトナリ(第三ニ破産ト家資分散トハ互ニ其罰則ヲ同シクセス)(商法第一〇五〇條以下刑法第三八八條第三八九條然レトモ二者其ニ宣告ノ手續ヲ同シクシ公權喪失ノ效果ヲ同シ又復權ノ手續ヲ同シウス(家資分散法第一條乃至第四條商人破産主義ノ論據ハ破産ナル制度ハ主トシテ商人ニ對シ必要ナルコトヲ明カナラシムルモ未タ以テ破産ヲ商人ニ限定スルノ論據ト爲スニ足ラサルナリ故ニ我民法ハ破産ト家資分散トノ區別ヲ廢止セテ一般破産主義ニ基ク破産ヲ認メタルコトヲ前提トシテ明示シタレトモ現今ニ於テハ未タ一般破産主義ニ依レル法規ナキヲ以テ此主義ヲ前提トシタル我民法ノ適用ヲ全カラシムルノ必要上家資分散ヲ民事ニ付テ破産ナリト云ヘリ(民法施行法第二條)

第二編 實體的破産法規

第一章 破産當事者

破産當事者トハ破産債權者及ヒ破産債務者ノ總稱ナリ破産手續ハ其手續開始

ノ當時ニ於テ債務者ニ對シ其財産上ニ満足ヲ求ムル權利アル債權者ニ平等ナル金錢の満足ヲ得セシムルノ目的ヲ以テ存在スルモノナルカ故ニ破産關係ニ於テハ常ニ破産當事者アルハ固ヨリ怪ムニ足ラサルナリ左ニ破産債權者及ヒ破産債務者ノ意義等ヲ分説スヘシ

第一節 破産債權者

(一) 意義 破産債權者即チ破産手續ニ於テ其權利ヲ主張シ得ル債權者トハ破産財團タル債務者ノ總財産上ニ於テ満足ヲ求ムル權利ヲ有スル破産債務者ニ對スル各債權者ナリ之ヲ換言スレハ債務者ニ對シ破産手續開始ノ當時マテニ於テ發生シタル財産上ノ請求權ヲ有スル總テノ債權者ナリ左ニ之カ要件ヲ分説スヘシ

(イ) 財産上ノ請求權 破産債權者ハ債務者ニ對シテ財産上ノ請求權ヲ有スルモノナラサルヘカラス財産上ノ請求權トハ債務者ノ財産ヲ以テスル給付ヲ目的トシタル請求權ニシテ此權利カ直接ニ金錢ノ支拂ヲ目的トスルモノタルト

又金錢ニ換價スルコトヲ得ヘキモノヲ目的トスルモノナルトハ敢テ之ヲ問ハザルナリ是レ破産手續カ債務者ノ總財産ヲ換價シ以テ總債務ノ支拂ニ充ツヘキ目的ヲ有スルヨリ生スル當然ノ結果ナルヘシ財産上ノ請求權タル以上ハ其權利ノ内容并ニ發生原因ノ如キハ法律上毫モ關係スル所ナシ故ニ法律行為不法行為又ハ法律上ノ規定殊ニ親族關係ヨリ生スル財産上ノ請求權ハ何レモ破産手續ニ於テ主張スルコトヲ得ル權利タルニ妨ケナシ是ヲ以テ親族關係ヨリ生スル養料請求權モ亦此種ニ屬スヘシ蓋シ獨逸破産法理由書ニ於テ明言スル如ク身分關係殊ニ親族關係ヨリ生スル債權ト雖モ荷モ金錢又ハ金錢ニ換價スルコトヲ得ヘキ事物ノ給付ヲ目的トスルモノナル以上ハ法律上之ヲ他ノ債權ヨリ劣等視スルハ其當ヲ得サレハナリ然レトモコレハ氏ハ親族關係ヨリ生スル養料請求權ハ親族上ノ關係アル一人カ其財産上ノ資力ニ應シテ他ノ一人ニ寄附スルモノナルヲ以テ該請求權ノ存否并ニ其程度ハ養料義務者ノ財産上ノ資力如何ニ關係スルモノト謂ハサルベカラズ隨テ養料義務者カ破産シタルトキハ養料請求權ハ當然消滅スルモノナリト云ヘキ其當否ハ諸君ノ研究ニ委スル

民法第七四七條第七九〇條

シ民法第七四七條第七九〇條ニ於テ養料請求權ノ消滅ハ破産手續ニ依リテ之ヲ決定スルコトヲ目的トスル請求權民法第八二一條破産上ノ請求權ニアラスレバ父ヲ定ムルコトヲ目的トスル請求權民法第八二二條婚姻ノ取消及ヒ離婚ノ請求ノ如キ純然タル親族關係上ノ請求權ハ破産手續ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得サルヲ當ラ俟タルナリ破産シタル債務者ノ作為又ハ不作爲ヲ目的トシタル請求權モ亦同シ何トナレハ債務者ハ破産シタルカ爲メニ勞働スルノ自由ヲ失ハサルカ故ニ該請求權ニ對スル義務ヲ履行スルコトヲ得サモノニアラサレハナリ而シテ債務者ノ作為ニハ或ハ通常ノ手細工ノ如キ第三者ヲシテ債務者ニ代リテ之ヲ爲サシムルコトヲ得ルモノト又醫師ノ診斷教師ノ教授學者ノ著作ノ如キ第三者ヲシテ債務者ニ代リテ之ヲ爲サシムルコトヲ得サルモノアルヘシト雖モ這ハ法律上毫モ關係ナカルヘシ然レトモ第三者ヲシテ爲サシムルヲ得ヘキ債務者ノ作為ヲ目的トスル請求權ノ強制執行ニ關シタル債權者ハ債務者ノ費用ヲ以テ第三者ニ之ヲ爲サシムルコトヲ得ルカ故ニ斯ル請求權ハ斯ル費用ヲ支拂ハシムルヲ目的トスル條件附債權ト云フコトヲ得ヘシ隨テ條件附債權トシテ之ヲ破産手續ニ於テ主張スルコトヲ得

ヘ(民法第七三三條民法施行法第五四條同一ノ論旨ニ依リ作爲目的トスル債務ヲ負フ者カ債權者ニ對シ豫メ不履行ニ際シテ一定ノ損害賠償ノ責ニ任スヘキ旨ヲ約セタルニ因リ生シタル債權モ亦條件附債權トシテ破産手續ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得ヘシ其他債務者ノ作爲若クハ不作爲ヲ目的トスル請求權ハ第三者ヲシテ爲サセムルコトヲ得ルモノナルト否トニ拘ラス條件附ノ損害賠償請求權トシテ破産手續ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得ヘシ何トナレハ債權者ハ債務者カ正當時期ニ其債務ヲ履行セサルトキハ之ヨリ生シタル損害ノ賠償ヲ有效ナル履行ニ代ヘテ民法上請求スルコトヲ得レハナリ

(ロ) 破産手續ノ開始以前ニ發生シタル債權 破産債權者ノ破産者ニ對スル財産上ノ請求權ハ破産宣告ノ當時ニ於テ既ニ發生シタルモノナルヲ要ス破産宣告當時ニ於テ既ニ發生シタルトキハ或ハ財産上ノ請求權ハ破産宣告當時ニ於テ完全ニ成立シ或ハ財産上ノ請求權カ未タ完全ナルニアラスト雖モ少クモ其完全ノ成立カ債務者ノ其財産ニ對スル處分行爲ト認ムヘキ行爲ニ係ラサル程度ニ於テ成立シタルヲ云フ是レ蓋シ債務者カ破産シタルトキハ爾後財産ニ付キ

シテ爲テテ避タルニ便ナリト云フ又野蠻人ト雖モ不完全ナカラ岩窟或ハ木ノ穴等ニ入り或ハ樹間ニ巢ヲ造リテ居住スルモノアルヲ見レハ住居ノ必要ナルコト知ルヘキナリ又野蠻人ハ一週間位ノ喰糧ヲ爲スコトアリト聞ケトモ永ク食ハスシテ居ルコトハ到底能ハサル所ナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ衣食住ノ人間ノ生活ニ必要ナルコト多辯ヲ要セスシテ明カナリ

ヲナルナリ(三)

(三) 人類ハ欲望ノ滿足ニ最モ注意シ之カ爲メニ經營慘澹アラサルナシ換言スレハ吾人ノ經濟的活動ハ殆ト欲望ヲ滿足セシメント欲スル經營ノ結果ナリ經濟現象ノ根源ハ實ニ人類ノ欲望ニ在リト謂フヘシ

欲望ニハ社會全體ノ欲望ト一私人ノ欲望トノ別アリト雖モ兩者ノ區域ハ其ニ異メ定マリタル先天的自然的ノ限界アルニアラスシテ文明ノ進歩ニ從ヒテ絶エス變遷シ擴張スルモノトス(四)

(四) 社會ニハ社會ノ欲望アリ國家ニハ國家ノ欲望アリ一國ノ欲望ハ以テ之ヲ國是ト爲ササルヘカラス歴史ヲ讀ミシ者ハ一國ノ國是カ往往豪傑ノ手ニ

依リテ變更セラレシコトアルヲ見シ然レトモ是レ唯皮相ノ見タルノミ一國
ノ國是社會全體ノ欲望ノ趨勢ハ爾カク一個人ノ爲メニ左右セラレルモノニア
ラス時勢ハ決シテ一朝一夕ニ成ルニアラス英雄豪傑ノ爲ス所ハ唯速ニ時運
ノ向フ所ヲ察シテ之ニ乗スルニ在ルノミ左レハ英國ノ國是ハ時ニ多少ノ變
動ナキニアラスト雖モ一ニ世界ノ商權ヲ掌握セントスルニ在リ又露國ノ國
是ハ絶エヌ南進ノ方針ヲ探レルコト「ベートル」大帝以來世界各國ノ認ムル所
ナリ是レ蓋シ露國ノ地勢上已ムヲ得サルノ結果ナラン抑モ露國ノ南進策ハ
「ベートル」大帝ノ時代ニ始マリシニハアラス同帝ノ時代ニ至リテ唯一層ノ明
白ヲ致セシノミ而シテ之ヲ佛國ノ國是ニ見レハ大革命ノ前後多少ノ變動ア
リシニ拘ラス概シテ云ヘハ同國ハ絶エヌ世界ノ文明ヲ指導セントシツツア
ルカ如シ夫レ然リ而シテ總テ欲望ハ皆先天的ニ定マレルモノニアラス又
一定ノ區域内ニ限ラルルモノニアラス社會ノ進歩ニ伴隨シテ絶エヌ變遷シ
擴張シツツアルモノナリ斯ノ如キ性質ヲ有スル欲望ハ即チ文明ノ基礎ヲ成
ス是レ單ニ社會全體ノ欲望ノミナラス一私人ノ欲望ニ於テモ亦同一ナリトスレ

現時ノ社會ニ於ケル人心ノ欲望ハ其種類分量共ニ頗ル多シ之ヲ悉ク枚舉スル
ノ到底能ハサルコトナリ能フヘキハ夫レ唯一一定ノ觀察點ヲ基トシテ欲望ヲ分
類スルノ法アルノミ歟(五)獨逸ノ經濟學者「ロッシェル」氏ハ欲望ノ人生生活ニ
(五)今日ノ世界ニ於ケル欲望ハ其種類及ヒ分量共ニ頗ル多クハ悉ク之ヲ
枚舉スルハ到底不能ノ業ナリ唯爲シ得ヘキハ欲望ノ種類ヲ分ツノ一方法ア
ルノミナラン而シテ其分類ノ方法亦種種アリ或ハ人生ノ生活ニ於ケル關係
ノ緩急ヲ標準トスルモノ或ハ欲望ヲ滿ス爲メニ要スル金錢ノ多寡ヲ以テ標
準トスルモノ或ハ品格ノ高等ヲ以テ標準トスルモノ等其見ル所異ナレリト
雖モ固ヨリ一定不變ノ標準アルニアラサレハ何レモ誤レリト謂フヘカラス
要ハ唯欲望ノ種類ヲ悉ク包容スルニ足ルヘキ標準ヲ發見スルニ在ルノミ要
スルニ人類ノ生活ニ於ケル緩急ヲ基本トシテ欲望ノ種類ヲ分類スルヲ最モ
便利ト爲スヘキカ如シ

於ケル關係ノ緩急ヲ基トシテ之ヲ三種ニ分テリ曰ク自然的欲望曰ク地位的欲
望曰ク奢侈的欲望ト是レ頗ル便利ナル分類法ナレハ直チニ採リ以テ欲望ニ關ス

ル説明ノ歩ヲ進ムルモ亦可ナリト雖モ余ハ觀ル所アリ總テノ欲望ヲ分テテ第一消費ニ因リテ満足サルルモノ第二消費ニ因ラス却テ消費ヲ爲ササルカ爲メ満足サルルモノノ二者ト爲シ其第一ヲ更ニ細別シテ「ロッシェル氏」ノ如クセムト欲ス而シテ第二種ノ欲望ハ守錢奴ノ徒ラニ金錢ヲ蓄積スルノミヲ是レ事トシ之カ費シテ身分相應ノ欲望ヲ満足スルコトヲ爲サス却テ費ヤササルヲ以テ其欲望ヲ満足スカ如キヲ謂フ

「ロッシェル氏」ノ所謂自然の欲望トハ人類ニ取テ自然ニ必要ナル衣、食、住ニ關スルモノニシテ之ヲ満足サルトキハ生命健康ヲ損傷ス(セ)地位の欲望トハ人人ノ(セ)吾人人類ニ取リテ天然自然ニ必要ナル欲望ハ即チ自然の欲望ナリ故ニ之ヲ必要の欲望ト稱スルモ亦可ナリ若シ夫レ之ヲ缺カン乎生命健康ハ得テ保ツヘカラサルナリ

地位ニ應スルモノナリ吾人カ自他ニ對シ社會上ノ地位品格ヲ保維スルニ必要ナルモノナリ之ヲ満足サルトキハ人人其自己ニ對シ社會ニ對スル面目ヲ失ハサルヘカス此種ノ欲望ハ人人ノ社會上ニ有スル地位高ケレハ高キ程益ハ高尙

ナルヲ常トス(セ)奢侈の欲望トハ人人ノ分限以上ニ位シ身分ニ相應セサルモノ(セ)人ハ其身分ニ相應スル社會上ノ地位品格ヲ保持セサルヘカラス而シテ之ヲ保持スルノ必要ハ社會ニ對スルノミナラス自己ニ對シテモ亦同一ナリトス切ニ言ヘハ他人ノ前ニテハ高尙ナル品格ヲ裝ヒナカラ自己一人ノ時ニハ野卑極マレル行動ヲ爲スカ如キハ斷シテ之ヲ避ケサルヘカラス抑モ小人閑居シテ不善ヲ爲ストハ古人ノ警語ナリ文明人士ノ慎重ヲ要スヘキ所トス例ヘハ書生ハ書生相應ノ地位品格ヲ保ツヘク又車夫ハ車夫相當ノ地位品格ヲ持セサルヘカラス若シ然ラズンハ遂ニ社會ノ排斥ヲ受ケルニ至ルヘシ而シテ此種ノ欲望ハ社會上ノ地位高ケレハ高キ程其分量及ヒ種類ノ増加スルモノナリ尤モ格段ナル一個人ニ付テ之ヲ觀レハ時ニ反對ノ結果ナキニアラスト雖モ社會ノ全體ヨリ之ヲ洞觀スルトキハ必ス斯ノ如キ現象ヲ發見スヘクナリ故ニ此種ノ欲望ハ勿論生命健康ヲ保ツニ必要ナルニアラス又社會上ノ地位ヲ維持スルニモ毫末ノ必要ナシ是レ唯常ニ自己ノ支出ヲシテ遂ニ收入ノ及ハサル所タラシムルノ結果ヲ奏スルモノタルニ過キス(セ)此種ノ欲望ハ之ヲ滿

(○) 奢侈的欲望トハ身分ニ相應ナル欲望ノ謂ナリ即チ車夫ニシテ綾羅綢繡ヲ纏ヒ以テ街衢ニ乘客ヲ待ツカ如キ是ナリ是レ單ニ生命健康ヲ保維スルニ必要ナルノミナラス却テ害アリトス而シテ此欲望ヲ滿サントスルトキハ自己ノ支出ヲシテ遂ニ其收入ノ及ハサル所ニ至ラシメサルヘカラス好シ一兩年間位ハ無事ニ通過スルコトヲ得ヘキモ一生涯ヲ通シテ然ランニハ到底倒産ノ悲境ニ沈マサル可カラス豈慎マサルヘケンヤ

足セメサルヲ可トス之ヲ満足セシムレハ小ニシテハ一身一家ノ破産ヲ來シ大ニシテハ一國ノ衰亡ヲ招ク羅馬ノ末路實ニ善ク之ヲ證ス(九)

(九) スル欲望ハ之ヲ満足セシメサルヲ可トス何トナレハ此欲望ニシテ永ク續キ絶エス之ヲ滿ス時ハ必スヤ破産ヲ招クヘシ縱令一人ニテモ常ニ此種ノ欲望ヲ滿スモノアルトキハ遂ニハ一社會ノ慣習ト爲リ其波及スル所實ニ塞心スヘキモノアリ羅馬ノ歴史ハ實ニ善ク之ヲ證セリ抑モ羅馬ハ微徵タル小國ヨリ起リテ遂ニ一大強國ト爲リ當時ノ世界ニ雄飛セシ古帝國ナリ而シテ其滅亡ノ原因ハ固ヨリ種種アルヘシト雖モ北方日耳曼人ノ侵略ニ依リテ

滅亡セリト云フハ抑モ皮相ノ見ナリ斯ノ如キ見解ハ所謂史ヲ觀テ眼光紙背ニ徹セサルノ致ス所ナリ夫レ羅馬ノ起ルヤ一朝一夕ノ事ニアラス羅馬ノ亡フルヤ亦一朝一夕ノ事ニアラサルナリ羅馬ノ滅亡ハ國民ノ奢侈實ニ之カ因ヲ爲セリ即チ數國外患ナキモノハ國亡フトハ真ニ此謂ナリ羅馬ニ於ケル奢侈ハ實ニ言語ニ絶エタリ羅馬ノ國民ハ爲メニ腐敗セリ豈滅亡セスシテ止ムヘケンヤ彼ノアチラ等ノ侵入ハ唯滅亡ヲシテ一日ヲ早カラシメタルニ過キサルノミ然リト雖モ是レ豈獨リ羅馬ノミナランヤ何レノ國ノ歴史ト雖モ皆然ラサルハナシ故ニ余ハ羅馬ノ滅亡ハ日耳曼人ノ侵略ニアラスシテ國民ノ奢侈ニ因ルト曰フ

其レ然リ而シテ奢侈的欲望ト地位的欲望トハ往々之ヲ明白ニ分別シ難シ如何ナル點マテカ地位的欲望ニシテ如何ナル點ヨリ以上ハ奢侈的欲望ナルヤ是レ頗ル曖昧ニシテ吾人往往其分界ニ苦シム甲ノ人ニ對シテ社會上ノ地位品格ヲ保維スルニ必要ナル欲望モ乙ノ人ニ對シテハ奢侈的欲望タルコトアルハ何人ト雖モ之ヲ認ムルコト難カラス(一〇) 尙ホ一步ヲ進メテ之ヲ論スレハ自然的欲

(10) 奢侈的欲望ト地位的欲望トハ一見區分シ易キカ如キモ此二者ハ實際明白ニ區分スルコトヲ得サルモノナリ即チ何レノ點マデカ地位的欲望ニシテ何レノ點ヨリカ奢侈的欲望ナルカ往往之カ區別ニ苦シムモノナキニアラス例ヘハ堂堂タル國務大臣カ其出入ニ馬車ニ乗ルカ如キ又宏壯ナル官宅ニ住居スルカ如キハ其威嚴品格ヲ保ツニ必要ナルヘキモ若シ一個ノ貧賤生カ輕車ヲ驅リ肥馬ニ鞭チ街頭ヲ疾驅スルカ如キ又壯嚴ナル家屋ニ住居スルカ如キコトアラハ非常ノ贅澤ナリ即チ此兩者ノ區別ハ其行爲ハ同一ナルモ其行爲ヲ爲ス人ニ依リテ或ハ奢侈的欲望ト爲リ或ハ地位的欲望ト爲ルヘシ以テ兩者ノ區別ノ難キヲ知ルヘキナリ

望ト地位的欲望トノ間ニモ亦判然タル區別ヲ絕對的ニ立テ難キ場合多シ何トナレハ或人ニ必要ナル地位的欲望モ他ノ是ヨリモ地位ノ高キ人ニ取リテハ未タ以テ其地位品格ヲ維持スルニ足レリト爲スコト能ハス其位ノコトハ甲者ニ取リテハ實ニ必要缺ク可カラサル自然的欲望ナルコト往往是アリ自然的欲望ノ人々ニ依リテ大ニ異ナルコトアルモ更ニ疑フヘカラス甲ノ人ニ適當スル

衣食住チ乙ノ人ニ取リテハ未タ以テ決シテ満足スヘシト爲スニ足ラス(11)

(11) 向ホ一層進ミテ論スルトキハ地位的欲望ト自然的欲望トノ間ニモ亦判然區別シ難キモノアリ即チ自然的欲望モ人ニ依リテ異ナリ甲ニ適應ナルモノモ乙ニハ必スシモ適當ナラス例ヘハ野蠻人ノ自然的欲望ハ必スシモ文明人ヲ満足セシムルニ足ラサルカ如シ是ニ由リテ之ヲ觀レハ財産ノ多少慣習ノ如何ハ自然的欲望ニ大ナル影響ヲ與フルモノタルコト明カナリ故ニ自然欲望ハ本來斯ノ如キモノナリト豫メ定ムルコト能ハス是レ實ニ種類ノ點ニ於テ然ルノミナラス分量ノ點ニ於テモ亦然リトス

第一種ノ欲望ト第二種ノ欲望トノ區別ハ實ニ第二種ト第三種トノ區別ト同様ニ見識ニ明白ナルカ如シト雖モ一歩ヲ進メテ熟考スレバ其實頗ル立テ難キモノトス經濟學ハ此種ノ困難問題ヲ其發端ニ掲ケサルヘカラス(12)

(12) 是レ即チ前ニ述ヘタル所ヨリ推測シ得ヘキ結論ニ外ナラス經濟學ハ欲望ノ區別ヲ立テナカラ其區別タルヤ實ニ絕對的ノ區別ニアラス即チ發端ヨリ此困難ナル區別ノ問題ヲ研究セサルヘカサルナリ人間社會ノコト

ハ終始變化極リナキモノナルヲ以テ欲望ノ種類ノ如キハ明確ニ之ヲ論斷スルヲ得ス即チ機械的ニ論究スルモノトハ各其論決リ異ニセサルヲ得ナルナリ以上論スル所ニ由リテ之ヲ推考スレハ彼ノ贅澤ト節儉トノ區別ノ如キモ所謂贅澤行為ノ中ニハ他位の欲望ヲ滿スコトモ含マレ居レハ絕對的ニ之ヲ解説スルハ甚タ難シ此二者ハ共ニ人ニ依リ階級ニ依リ國ニ依リ大ニ異ナルモノト謂ハナルヘカラナルコトナラン(三)從テ贅澤品ト必要品トノ區別ノ如キモ決(三)以上欲望ノ種類ヲ講了セルカ世上ニ所謂贅澤ト節儉トハ一見截然タル區別ノ存スルモノノ如クナレトモ所謂贅澤行為ノ中ニモ亦地位的欲望ヲ滿スコトモ包含サルモノナレハ明白ナル解説ヲ與フルコト難シ畢竟人ニ依リ階級ニ依リ國ノ貧富ノ程度ニ依リテ大ナル差異ヲ呈スルコトト知ルヘシ例ヘハ王公貴人ニ取リテハ地位的欲望ヲ滿スニ過キサルモノモ常人ニ取リテハ贅澤タルカ如シ

セテ絕對的ニ存在スルモノト爲スヲ得ナルヘシ例ヘハ酒ト煙草トハ通常贅澤品ト名ケラレ各國ノ政府ハ概テ之ニ重稅ヲ課スルヲ一般ノ原則トス是レ實ニ

事ノ大體ニ於テ敢テ不可ナルコトナシト雖モ畢竟單ニ相對的ノ斷定タルニ過キスト謂ハサルヘカラス(四)此二品ハ何人ニ取リテモ贅澤品ナリト謂フヲ得(四)贅澤品ト必要品トノ區別ハ相對的ノモノニシテ絕對的ノモノニアラ

ス例ヘハ煙草酒ノ二品ハ何人モ之ヲ贅澤品ト認ムルノミナラス各國ノ政府ハ大概之ニ重稅ヲ課スルヲ常トセリ現ニ我國ニ於テモ葉煙草ニ對シテハ非常ニ重キ稅ヲ課スルト同様ノ結果ヲ奏スル專賣法ヲ行ヘリ又近來傳フル所ニ據レハ酒ニ對シテハ更ニ一層ノ重稅ヲ課セントスルモノノ如シ然レトモ煙草ハ必スシモ絕對的贅澤品ニアラスシテ唯相對的ニ贅澤品タルノミ是忘ルヘカラサル事ナリ

合アリ若シ或人ニシテ酒ト煙草トノ兩者アルニアラサレハ其生命健康ヲ維持スルコト能ハサルカ如キコトアラハ此二品ハ疑モナク此人ニ取リテハ必要品ナリ一國一階級ノ人皆此人ノ如クナラハ誠ニ嘆息スヘキコトニハアレトモ其國其階級ニ取リテハ二品共ニ必要品ト爲リタルナリ(五)斯ノ如キ(五)甚タ奇異ナル現象ナレトモ酒ト煙草トハ何人ニ取リテモ必要ノ物

品ナリト斷言スルヲ得ス若シ此二品ナケレハ生命健康ヲ維持スルコト能ハサル人アラハ此人ニ取リテハ兩者共ニ無ニ必要品ナリ若シ一國全體カ又ハ或一階級ノ若者皆斯ノ如キトセハ固ヨリ嘆息スヘキコトナレトモ此國此階級ニ取リテハ同シク必要品ナリ又或種ノ病氣ニ取リテハ酒ニアラサレハ飲料ト爲スコト能ハサル場合アリ會テ余ノ知人某病氣ニ罹リシカ平素ハ好酒家ニアラサリシモ病氣ノ爲メ「ジャンパン」ノ外飲食共ニ咽喉ヲ通セサルヨリ數日ノ間「ジャンパン」ヲミテ飲料トシテ居リシカ結局病ハ癒テ舊ニ復セタレタリ是レ取リモ直サス此人ノ病氣ノ回復ハ「ジャンパン」ニ在リト謂フヘシ「ジャンパン」ハ通常ノ醇酒ヨリモ高價ノ飲料ナレハ贅澤品タルカ如キモ斯ル場合ニハ必要品タリシコト多言ヲ俟スシテ明カナリ

必要ノ生シタルハ素ト惡習惡慣ニ依ルコト疑フヘカラスト雖モ是レ自ラ別問題ナリ是等ノ事ニ關シ善惡正邪ヲ判定スルハ經濟學本來ノ職分ニアラス飲酒喫煙ノ習慣ノ善惡正邪ニ拘ラス苟モ之カ欲望ヲ滿スニアラサレハ生活スルコト能ハサル人アラハ此人ニ取リテハ酒ト煙草トノ二品ハ經濟學上之ヲ必要

カ故ニ「バナナ」ヲ常食トスル *Hecho* 土民ハ懶惰ニ流レテ文明ノ何物タルヲ知ラサルナリ然ルニ天惠物ノ分量其宜シキヲ得タル溫帶地方ニ於テハ文明進歩日ニ駭駭トシテ其止マル所ヲ知ラサルナリ

第二項 地 勢

地勢ノ如何ニ因リテ交通ヲ助長シ或ハ之ヲ阻害スルノミナラス其地方ニ適スル産業ノ種類ヲ決定スル主要ナル原因ト爲ルモノナリ例ヘハ高地ニ狩獵業森林業起リ海邊ニ漁業商業等ノ發達ヲ見ルカ如シ

第三項 地味及ヒ地質

地味ノ肥瘠及ヒ礦物ノ多少ハ農業鐵業其他ノ産業ニ至大ナル關係ヲ有スルモノナリ「フランクリン」氏ノ英國ノ今日アルハ全ク石灰ト運河トノ賜ナリト言ヘルハ實ニ故アルナリ又支那ノ黃土地方魯ノ黑土地方ノ農業盛ナルハ全ク地味ノ然ラシムル所ナリ

第四項 自然ノ動力及ヒ動力ヲ起ス資料ノ分配

生産ノ方法ハ主トシテ物質ノ場所及ヒ形態ヲ變スルニ由リテ行ハルモノナリ然ルニ

一、物ノ性質ハ之ニ抵抗ス

二人ノ筋力ハ極メテ微弱ナリ

故ニ人ハ自然ノ必要ニ迫ラレ道具ヲ使用シテ人力ノ強サヲ増加スルコトヲ發明セリ例ヘハ挺子、滑車、水壓機ノ使用ノ如シ此方法ニ依ルトキハ極メテ微弱ノ力ヲ以テ重大ナル物質ヲ取扱フコトハ極メテ容易ナリト雖モ多クノ時間ヲ要スルモノナリ然ルニ物ヲ生産スルニ當リテ餘リニ多キ時間ヲ要スルトキハ吾人カ生産ヲ爲ス目的ヲ達スル能ハサル場合モ甚タ多シ故ニ道具ノ使用ニ因リテ益スル所モ亦一定ノ限界アリ是ニ於テ吾人ハ人以外ノ力ヲ捉ヘ來リテ人ノ筋力ノ微弱ナル缺點ヲ補フコトヲ勉ムルモノナリ特ニ奴隸制度ノ廢止以來無償若クハ僅少ノ報酬ヲ以テ他人ノ勞力ヲ使用スルコト能ハサルヲ以テ自然力

ノ補助ヲ求ムルノ必要益切ナリ從テ自然ノ動力及ヒ之ヲ誘起スル資料ニ富ムト否トハ其地方ノ産業ノ發達ニ重大ナル關係ヲ有スルモノナリ例ヘハ英國ニ於ケル工業ノ發達ハ石炭ノ產出多キニ基シ「コロンブス」發見以前ニ於ケル亞米利加ノ住民ノ間ニ農業ノ發達セザリシハ主トシテ牛馬ノ存在セザリシニ因ルモノナリトノ説アリ

自然ノ動力ニシテ人ノ利用スルモノハ動力ノ筋力、風力、水力等ナリ

又動力ヲ誘起スル資料タルモノハ石炭、石油、薪等ナリ

力役動物トシテ吾人ノ使役スルモノハ牛、水牛、馬、象、馴鹿「エスキモー」犬等ナリ就中最モ一般ニ使役スル馬ハ人ノ七倍ノ力ヲ出スモノナレトモ之ヲ養フノ費用ハ力役人夫ノ生活費ニ比スレハ遙ニ廉ナリ然レトモ此動物ノ飼料ヲ得シカ爲メニハ廣大ナル場所ヲ要スルカ故ニ此畜類ヨリ得ル動力ノ分量ハ甚タ多キヲ望ムコト能ハス從テ此動力ハ自然ノ效力ニ對スル吾人ノ欲望ヲ充タスニ足ラサルナリ風及ヒ流水ノ力ハ或ハ風車ヲ廻轉シ或ハ帆船ヲ走ラシ或ハ水車ノ作用ヲ助クル等古代ヨリ利用セラレタリ特ニ水力ハ一タヒ之ヲ變シテ電力ト爲シ

容易ク隨意ノ場所ニ誘導セテ使用スルコトヲ得ルニ至リタルヲ以テ從來ニ比スレハ一層好ク利用セラル

又石炭石油薪等ノ燃燒ニ因リテ誘起セラルル蒸氣ノ膨張力ハ各種ノ機械ヲ運轉スル原動力トシテ最モ廣ク利用セラルルモノナリ此動力ハ之ヲ誘起スルニ要スル費用多カラサルノミナラス吾人ノ欲スル時ト所トニ於テ隨意ノ分量ヲ起スコトヲ得ヘタ又此動力ヲ以テ更ニ電力ヲ誘起スルコトヲモ爲シ得ルカ故ニ各種ノ自然ノ動力中最モ便利ナルモノナリ

第二節 勞力

第一項 勞力ノ意義

勞力トハ生産ノ目的ヲ達センカ爲メニスル精神及ヒ身體ノ力ノ活動ヲ云フ例ヘハ農夫ノ田ヲ耕シ職工ノ機械ヲ作り工藝品ヲ製造スルカ如キ活動ハ勞力ナリ遊戲散步ノ際人ノ爲ス活動ハ其目的トスル所生産ニ在ラサルカ故ニ勞力ニ非サルナリ

第二項 勞力ノ分類

第一 主トシテ精神ヲ活動セシムルカ又ハ肉體ヲ勞スルカニ基キ勞力ヲ分テ左ノ二トス

(一) 精神の勞力 例ヘハ學者技師ノ勞力ノ如キモノ

(二) 肉體の勞力 例ヘハ車力土方ノ勞力ノ如キモノ

第二 豫メ一定ノ修練ヲ要スルト否トニ因リ又左ノ如ク區別ス

(一) 修練の勞力 例ヘハ美術品ノ製作學者ノ勞力ノ如キモノ

(二) 非修練の勞力 例ヘハ荷擔夫左官ノ手傳ノ勞力ノ如キモノ

第三 勞力ニ次ク直接ノ結果ニ因リテ之ヲ分類スルトキハ

(一) 發明及ヒ發見ノ勞力

(二) 自然ノ產物ノ採收 例ヘハ狩獵漁獵採礦等ノ勞力ノ如キモノ

(三) 動植物ノ生活力ヲ利用シテ粗生品ヲ生産スル勞力 例ヘハ農夫牧童ノ勞力ノ如キモノ

- (四) 造ノ勞力 粗生産品ニ加工シテ有用ナル工製品ヲ作出スル各種ノ工業者ノ勞力ノ如キモノ
- (五) 貨物ノ運搬 例ヘハ各種ノ商人ノ勞力ノ如キモノ
- (六) 貨物ノ交換 例ヘハ消防夫燈臺ノ番人ノ勞力ノ如キモノヲ云フ
- (七) 貨物消滅ノ防禦 例ヘハ消防夫燈臺ノ番人ノ勞力ノ如キモノヲ云フ

第三項 勞力ノ分量

人ハ重量長短ヲ計ルニグラム「メートル」アルカ如ク勞力ノ分量ニ關シテモ或ル一定ノ標準ヲ定メテ之ヲ測定セント欲スルノ傾向ヲ有スルモノナリ而シテ勞力ハ生産上ニ效果ヲ顯スト同時ニ之ヲ爲ス人ニ對シテ多少ノ苦痛ヲ感セシムルモノナリ從テ世人カ勞力ノ分量ヲ測定スルノ標準トシテ採用セント欲スルモノニアリ

- (一) 勞力ノ生産上ニ及ホス效力即チ勞力ノ生産力
- (二) 勞力ヲ爲ス人ノ感スル苦痛ノ分量

是ナリ然ルニ吾人カ生産ヲ爲スニ當リテ爲ス所ノ勞力ハ其種類品等相同シカラサルモノ甚タ多ク從テ之ニ伴フ苦痛ノ感覺モ亦種種ナルカ故ニグラム「メートル」如キ簡單ナル標準ヲ以テ計算スル能ハサルナリ或學者ハ修練ヲ要セサル勞力ヲ基礎トシ他種ノ勞力ノ生産力ハ其何倍ニ當ルカラ計ラントシ勞力ニ伴フ苦痛ノ感覺ハ勞力者ノ生活力消耗ノ量ニ據リテ算定セント試ミタレトモ何レモ失敗シタリ現近ニ於テモ唯此等分量ノ大小輕重ヲ察ス原因ヲ列舉スルヲ以テ満足セサルヲ得サルナリ

第一目 勞力ノ生産力

勞力ノ生産力ハ下ノ三ツノ原因ニ由リテ増減ス

- 第一 勞働能力ノ多少
- 第二 勞働心ノ強弱
- 第三 勞力ノ協同
- 第一 勞働能力ノ多少

勞働能力トハ人ノ勞働ニ堪ヘ得ル能力ヲ云フ而シテ此能力ハ(1)體力ノ強弱(2)智力ノ多少(3)道德ノ高低ニ因リテ定マル而シテ體力ノ強弱ハ遺傳及ヒ發生後ノ衛生ノ如何ニ因リテ定マルモノナリ從テ人種及ヒ日常取ル所ノ食物ノ如何ハ大ニ體力ノ大小ニ關係アルモノナリ例ヘハ英國ノ勞働者ハ他國ノ勞働者ニ比シテ一般ニ體力ノ強大ナルハ一ハ其遺傳ノ然ラシムル所ナリト雖モ一ハ彼等ノ取ル所ノ食物カ概シテ他國ノ勞働者ノモノニ比シテ佳良ナルニ因ルモノナリト云フ諺ニ低廉ナル勞力ハ高價ナル勞力ナリ (cheap labour is dear labour)ト云フハ得給ノ勞働者ハ十分ナル食物ヲ取ルコト能ハス體力微弱ナルカ故ニ勞力ノ效果ト賃銀ノ額トノ割合ヨリ考フルトキハ厚給ニシテ豊カナル生活ヲ營ム強壯ナル勞働者ヨリモ却テ不廉ナルモノナリトノ意ナリ夫故ニ引續キ同一ノ勞働者ヲ雇傭スル場合ニ於テハ單ニ雇主ノ私益ヨリ考フルモ餘リ少キ賃銀ヲ給シ之ヲシテ體力ヲ維持スルニ必要ナル食物ヲモ得ルコト能ハサラシムルヨリハ相當ノ給金ヲ與ヘ十分ニ體力ヲ養ヘ安シテ勞働ニ就カシムルヲ可トスルハ勿論ナリト雖モ一旦賃銀トシテ勞働者ニ給スルトキハ其使用ノ方法

古代戰爭ニ因リ取得シタル食物又ハ奴隸ト附庸國ヨリ納付スル貢物トヲ以テ國家ノ財源ト爲セシ制度ハ中世封建ノ興隆ト共ニ漸次其跡ヲ絶テ宮廷即チ政府ノ財政ハ王室即チ官有ノ財産ヲ以テ支フルヲ原則トシ時ニ所屬ノ臣民ヨリ貢物ヲ徵收シ又ハ借受ケテ一時收支ノ適合ヲ圖ル等其財政ノ簡單ナルコト又學者ノ注意ヲ惹クニ足ラス中世紀暗黒ノ時代ヲ通シテ財政學モ亦他ノ諸學科ト均シク其發生ノ機運ヲ抑壓セラレタリ然レトモ中世ノ末葉ニ當リ封建制度破壊ノ種子タリシ獨逸并ニ伊太利ノ自由都市ニ於テハ市民ノ合意ニ出ツル課税ノ制度起リ商業ノ發達ニ伴ヒ財政ノ整理監督ノ實權リタルモノノ如シ故ニ或一派ノ學者ノ如キハ當時ノ自由都市ヲ以テ財政制度ノ權輿ト爲セリ又此時代ノ王國ニ於テハ官有財産管理ノ必要上所屬ノ官吏ヲシテ財政ノ事務ニ付キ研究スル所アラシメタリ是レ素ヨリ財務行政ノ事務ノ手續ニミ關スルモノニ過キサリシト雖モ官房學派ハ此ニ溢脇セルモノナリトス

第二款 第二期ノ財政學史

第十六世紀ノ後半ニ當リ財政ハ始メテ學者ノ注意ヲ喚起シ理論上ヨリ研究セラルルニ至レリ蓋シ歴史中世史ヨリ近世史ニ移リシ時期即チ封建制度改廢セラレ中央集權ノ興隆セシ際ニ方リテハ總テハ學科ハ其形而上ナルト形而下ナルトヲ問ハス皆其影響ヲ蒙リテ新正面ヲ開キ經濟上ヨリ觀察スレハ經濟上ノ實力ハ地主ノ手ヨリ資本家ニ移轉シ實物經濟時代ヨリ貨幣經濟時代ニ變遷セル時期ナリトス蓋シ封建制度ノ敗滅ニ伴フ君主專制國ノ興隆ハ國家ノ觀念ニ一大變化ヲ來シ宗教ノ力ニ由リ血族ノ關係ニ由リ結合セシ國家ハ一方ニハ其團體ノ膨脹ト團體自體又ハ相互ノ關係ノ複雜ナルニ伴ヒ一方ニハ其臣民ノ權利義務カ漸次承認セララルト共ニ國家行政ノ範圍及ヒ性質ハ根本ヨリ一新セラレ國家ノ目的要素ト見ルヘキ軍務司法ノ諸權ヲ統轄シテ進シテ內務行政ノ範圍ハ著シキ膨脹ヲ見ルニ至レリ從來ノ財源ハ以テ國家ノ經費ヲ支フルニ足ラス君主ノ主權ニ基ツク收入ノ外間接直接ノ諸稅國債等新ニ施行セラレテ財政ノ現象ハ俄ニ複雜ヲ極メ其行動ハ政府人民ニ於テ直接ニ且ツ重大ナル利害關係ヲ生スルニ至リシト同時ニ亞米利加ニ於ケル銀鑛ノ發見ニ伴ヒ貨幣經

濟ノ發達ハ實際上財政ノ管理ニ於テ理論上財政ノ研究ニ於テ大ナル便宜ヲ得ルニ至リシヲ以テ財政ノ面目ハ形式ニ於テモ亦一新セララルニ至レリ第二期ニ於ケル財政學者ハ主トシテ佛蘭西及ヒ獨逸ニ輩出シ伊太利及ヒ英吉利ニ於テハ又多少斯學ニ付キ研究セシ者無シトセス今國別ニ從ヒテ財政學ノ沿革ニ付キ之カ大樣ヲ叙述スヘシ

第一 佛蘭西 此時期ニ於テ最モ有名ナルハ「ボーダン」ニシテ紀元千五百七十六年「レバール」著書ニ於テ共和的政治論ヲ爲シ其第六編第二章ニ於テ官有財產輸出入稅直接稅等六種ノ綱目ノ下ニ國家ノ收入特ニ租稅賦課ノ問題ニ付キ論究セリ即チ輸出入稅ニ付テハ粗製品ニ高キ輸出稅ヲ課シ精製品ニハ高キ輸入稅ヲ課シテ以テ內國產業ノ隆昌ヲ期シ直接稅及ヒ間接稅ニ付テハ直接稅ハ負擔ノ能力ニ比例シテ可成必要ノ場合ニ制限スヘキコトヲ主張シ殊ニ當時ノ貴族僧侶等ノ階級カ免稅權ヲ有スルコトヲ批難シテ戶籍等ノ整理ヲ計リ公平ニ普及スヘキコトヲ論シ間接稅特ニ奢侈稅ニ付テハ氏ハ大ニ惡惡スル所アリ「ボーダン」カ所論ノ一般財政學殊ニ獨逸ニ於ケル官房學

派佛蘭西ニ於ケル重商主義ニ與ヘシ功勞ハ著大ナルモノナリトス。第十七世紀ノ經濟殊ニ財政上ノ現象ハ重商主義ノ反影ニシテ所謂「ゴルド時代」(一千六百六十一年乃至一千六百八十三年)ノ財政策ハ歐米ヲ風靡シ國家ノ富強ハ政府收入ノ大小ニ非ス。民力ノ強弱ニ在リトシ大ニ商業ノ獎勵ヲ圖リ國ノ富強ハ一金銀ノ多少ニ依ルモノトシ保護貿易ノ干涉政策ヲ行ヘリ此派ニ於テ學者トシテ有名ナルハ「アントワント・モンクレシアン」(Antoine Montchrésien)「トーマス・マン」等ト爲ス然ルニ重商主義時代ニ於ケル佛蘭西ハ國家ノ權力隆盛ヲ極メ國威歐洲ニ振フニ拘ラス一方ニ國民ハ皆租稅賦課ノ加重又ハ不公平ニ依テ悲境ニ陥リ重商主義ニ反對ノ聲ハ漸次學者間ニ起ルニ至レリ其有名ナル者ヲ「ボーバン」ノ十分ノ一稅論トス即チ氏ハ當時佛蘭西人民ノ慘境ヲ說キテ重商主義ヲ攻撃シ先ツ租稅賦課ノ論據ヲ政府保護ノ報酬ニ在リトシ十分ノ一ノ單位所得稅ヲ以テ總テノ階級ヲ一貫スルト共ニ一方ニハ貴族僧侶ノ特免權ヲ廢止シ一方ニハ下級人民ノ所得稅免除ヲ主張セリ氏ハ第二期ト第三期ノ連續タルヘキ人ニシテ「ボアール・バール」ト共ニ第一

稅論者ノ先鋒トシテ重農學派ニ與ヘタル影響少シト爲ナス其後「モンテスキュー」出テ其萬法精理第十三編ニ二氏ノ意見ヲ綜合シ殊ニ各國ノ政治組織ニ對スル財政制度ヲ表明シ租稅ニ付テ租稅賦課ノ論據ヲ公安ノ保險說ニ置キ又大ニ累進稅ヲ主張シタリ

第二 獨逸 財政學ノ發生ヲ期センニハ先ツ財政其モノカ學問的ノ研究ニ價值アル程度迄發達セシムルハ非ス封建制度壞レテ國家ノ目的ノ範圍膨脹スルト共ニ收入ノ財源モ亦擴張セラレ一方ニハ貨幣經濟カ財政ノ整理ニ便宜ヲ與フルコト大ナルニ隨ヒ管理法ノ組織又發生スルニ至レリ所謂官房學ナルモノハ此管理法ノ研究ニシテ又實ニ學問的ノ途ヲ開キタルモノナリ官房學派ニ於テ主ナル學者ハ「ボルニツス」(G. B. B. B.)「セツケンドルフ」(C. S. K. D. L. F.)「コンリッダ」(C. S. K. D. L. F.)「ユレーデル」(J. L. E. S. H. E. L.)等ニシテ其後「ユスター」ハ在來ノ研究ノ種目ヲ綜合彙類シテ國家學及ヒ財政學ナルニ書テ著シタリ國家學(一千七百五十五年刊行)ハ之ヲ二部ニ大別シ第一部ニ於テハ國家ノ富ノ維持並ニ増殖ノ理論ヲ研究シ第二部ニ於テハ國家ノ富ノ正當ナル使用ニ關スル理論ヲチ財政上ノ本論ヲ

總述セリ所謂廣義ノ官房學ニ對シテ狹義ノ官房學ト稱セラレルモノ是ナリ
第二部ハ之ヲ三編ニ分チ第一編ニ於テハ收入取得ノ方法ヲ論シ第二編ニ於
テハ支出ヲ論シ第三編ニハ財務行政即チ官房ノ組織並ニ經費ノコトヲ論セ
リ「ボーダン」初メ佛蘭西ニ於ケル重商主義カ官房學派ニ影響ヲ與ヘシコトハ
上述セル所ノ如シ而シテ「ユースチー」ノ如キ又其影響ヲ受ケタル一人ニシテ國
家ハ商工業ヲ保護獎勵シテ民力ヲ充實セシメ以テ國民ノ負擔力ヲ増殖スヘキ
コトヲ主張シ其著國家論ニ於テモ亦盛ニ「ユルベア」ノ政策ヲ稱揚セリ氏
王庫ト國庫ノ間ニ從來法律上ヨリ區別セル意見ニ反對シテ使用ノ目的及ヒ權
能ヨリ之ヲ分類セルカ如キ國庫ノ收入ヲ其財源及ヒ目的ニ從ヒテ分類セルカ
如キ國民ノ納付金ノ性質及ヒ純收入ニ歸課スヘキ所以ヲ論セルカ如キ皆財政
學上ニ紀元ヲ立ツルモノナリ蓋シ氏ノ財政論ハ第二期ヨリ第三期ニ入ルヘ
キ連續タルヘキモノニシテ重農學派ノ理論的研究ノ途ヲ開キシモノナリトス
第三 英吉利及ヒ伊太利 第二期ニ於ケル英國ニ於テハ財政學ニ關シテ見ルヘ
キモノナシ「ボツプス」「ロツク」等ノ租稅問題「ベツナー」ノ政治數理學「デツカー」ハ

「ンダーリント」等ノ單稅論「ダベナント」「ハツチン」「アーナルド」等ノ公債論ノ如
キモノアレトモ特ニ茲ニ序述スルノ價值ナシ但シ第三期ノ初期ニ財政制度
ニ付テ論セル「ヒューム」ノ政治論及ヒ「ゼームス」「スチュワード」ノ經濟論ハ共ニ
多少ノ價值ナシトセス
伊太利ニ於テハ「ギヤッジン」「ボタロー」「プロツギア」等ノ學者出テ「プロツギア
」ハ租稅論最モ有名ナリ

第三款 第三期ノ財政學史

經濟學カ重農學派ノ手ニ依リテ成立シタルカ如ク財政學モ亦經濟問題ニ關ス
ル思想及ヒ社會ノ狀態ノ變遷ト相俟ツテ社會哲學ヲ論究セル最先ノ學派乃チ重
農學派ニ依リテ之カ成立ヲ見ルニ至レリ蓋シ經濟問題ニ關スル思想ハ「モンテ
スキュー」「ルソー」「カント」等カ唱道セル國家哲學法律哲學等之カ變遷ヲ促シ社
會ノ狀態ハ主トシテ佛蘭西革命其他技術上ノ進歩ニ因リ又著シク面目ヲ改ム
ルニ至レリ重農學派ノ意見モ多クハ其以前ノ學說ニ於テ之ヲ見ルヘキコトヲ

得ヘキモノナレトモ之ヲ明確ニ論述セルハ此學派ノ功勞ナリト云此學派ハ不完全ナリト雖モ租税ニ於ケル公平問題租税ノ真正ノ負擔租税ノ國富ノ發達ニ及ホス影響收入ノ源泉ト其負擔力ノ關係等ノ問題ヲ決定シ主トシテ單稅論ヲ主張シタリ蓋シ重農學派ハ重商主義ノ反對トシテ經濟上ニ個人主義自由放任主義ヲ主張スル自由競爭學派ノ先鋒ナリ即チ經濟學ノ現象ハ自然ニ先天的ノ秩序存シ人爲ヲ以テ動スヘカラサルノミナラス各個人ノ利害ハ各個人最モ能ク之ヲ知ルヲ以テ人爲ヲ以テ國民ノ自由行為ヲ拘束スルハ無用ノ支出ヲ重スルモノナリトシ所謂助長ノ主義ヲ排斥シテ國家ハ唯法律上ノ保護ヲ與ヘ妨害危險ヲ除去スヘキ消極的ノ政策ニ限リ其費用モ單一ノ地租ヲ以テシ從來ノ不公平ニシテ純收入ノ少ナキ間接消費税ノ如キ一切之ヲ排除スヘシト爲セリ即チ重農學派ノ單一税ヲ主張スルハ要スルニ農業ノ純收入ヲ得ルモノナリトノ誤見ト從來ノ租税制度ノ弊害ニ對スル反動ヨリ生セルモノニシテ彼ノ重商學派カ國富ノ増進ニノミ著眼シテ干涉ニ失セルカ如ク重農學派ハ國家ノ收入ニノミ著眼シテ放任ニ失セルモノナリト云此學派ニ屬セル有名ナル學者ハダ

ホーケチーミラボロユルゴットホーケチーミラボロユルゴットホーケチーミラボロユルゴット重農學派ニ對シ自由競爭學派トシテ經濟學及財政學ノ創設者ト稱セラルルヲダダススミホナリ氏ノ千七百七十六年ノ著述ニ係ル國富論ノ第五卷ハ政府ノ費用ト收入トニ付テ始メタ之ヲ總括シテ論究シ所謂該博ニシテ能ク當時ノ狀勢ニ適合シ財政學ニ關スル學說ヲ骨髓ヲ網羅セルモノナリ氏ハ重農學派ノ單一税論ニ反對シテ租税ノ源ハ地代利潤及ヒ勞銀ノ三者ニ在リトシ之カ賦課ハ能力ニ比例スヘシト論セリ「スミス」財政論ハ之ヲ有機的ニ組成セサルノ批難ヲ免レス殊ニ國家ノ行動ハ國民ノ行動ト相抵觸スルモノトシ大ニ其範圍ヲ縮小セル點ハ尙ホ自由主義ノ通弊ヲ脱セサルモノナリ然レトモ從來ノ學說ヲ綜合シテ秩序アル理論的研究ヲ爲シタル效力ハ一般ニ新學ノ祖先ト稱揚スル處ナリ氏ノ國富論ハ直チニ外國ノ語ニ翻譯セラレ財政學ノ發達ニ大ナル影響ヲ與ヘシキ雖モ大陸ニ於テハ佛國革命後歷史派ノ勃興ニ依リ大ニ其勢力ヲ失フニ至レリ而シテ英國ニ於テハ財政學ハ「リカルド」ニ「スミス」ト「フオ」ニ「ホット」等相繼ぎテ起リ一時熾盛ヲ極メ其後主トシテ租税公債等ヲ以

ナ唯一ノ財政問題ト爲シ片断タル小冊子相次ぎテ財政學其モリ學理的研究
年ヲ遂フテ衰退スルニ至リシハ正ニ英國ニ於ケル經濟學ト頗ル其趣ヲ一ニス
ル所ナリ隨テ年代ノ分額上所謂第四期ニ屬スベキモノモ英國ニ在テハ之ヲ三
期ノ下ニ一括シテ述フルヲ妥當ナリイヌニ「經濟學ノ變遷」ニ大ニ
「ジョン・スチワード・ミル」ハ又「スミス」以後ノ學說ヲ綜合シテ所謂經濟原理ナル太
著述ヲ爲セリ氏ハ租稅ノ保護報酬說ヲ嚴シク能力比例說ヲ採リ所得稅遺產稅
等ハ比較的ニ重クシ收入ノ大部分ハ主トシテ間接稅ヲ以テシ一方ニハ遺產稅
ノ如キハ累進稅ヲ取ルト共ニ一方ニハ生計ニ必要ナル最少ノ所得ハ免稅ト爲
スヘシト論セルカ如キ最モ進歩セル點ニシテ氏等ノ學說ハ又「ウィルヤム・ピッ
ト」「アーロバート・ピール」「グラズドン」等ニ於テ實際上ニ適用セラレタルモ
ノ跡シトセス爾後英國ニ在テハ財政學トシテ觀ルヘキハ千八百四十五年ノ「マ
ツカロック」ノ財政學ニシテ餘ハ租稅公債等ニ關スル論文ニ過キヌ千八百九十
二年ニ至リ「バスター・ブル」著セシ財政學ハ比較的モ完備セルモノニシテ第
四期即チ獨逸派ノ影響ヲ受ケタルモノニ屬ス米國ニ於テモ近時「アダム」氏ノ公

債論「イリ」氏ノ租稅論等有名ナル著述續出スルニ至リシモ所謂英國派ノ研究
ニ至リテハ現時殆ト其跡ヲ絶ツニ至レリ「スミス」等ノ自由主義ノ論主
佛國ニ於テハ「ジャン・バプチスト・セー」其經濟論ニ於テ「スミス」學派ノ學說ヲ大
膽ニ唱道シタリ爾來佛國ニハ租稅並ニ公共收入ニ關スル著書類ル多ク而モ此
等ハ多ク經濟學ノ方面ヨリハ事ハ自由正義ノ觀念ヲ基礎トセルモノニシテ社
會主義ノ臭味ヲ有スル財政策ニ付テハ全ク反對ノ地位ニ立チ今日ニ於テモ猶
ホ獨逸學派ニ對抗シテ所謂佛國人ノ特色ヲ發揮スルハ財政學上頗ル趣味アル
現象ナリトス「スミス」以後ノカ改造ヲ催シ君主內廷ノ側面ヨリ觀察シタル
獨逸ノ官房學派モ「スミス」以後之カ改造ヲ催シ君主內廷ノ側面ヨリ觀察シタル
官房學ハ一般公共經濟ノ側面ヨリ觀察シタル官房學ト相分離シテ獨立ノ財政
學ヲ組成スルニ至レリ其重ナル學者ヲ「カール・ハインリッヒ・ラウ」爲ス「ラウ」ハ
千八百三十二年其著經濟學ニ於テ經濟學ヲ三部ニ分チ財政學ヲ純正經濟學及
ヒ應用經濟學ニ對立シテ論述シタリ氏カ經濟學及ヒ財政學ニ與ヘタル功勞ハ
主トシテ其所說該博秩序ヲ失ハス有機的ニ綜合シテ所謂財政學ノ形式及ヒ實

ト其ニ財政ノ行動ニ關係ナキ獨立ノ弊害モ亦場合ニ依リ財政上ノ手段ニ就
ヘテ之ヲ排除スヘシト爲シ財政學ノ範圍ハ俄ニ膨脹シ又錯雜ヲ極ムルニ至レリ
此學派ノ中心ハ獨逸ニシテ其主ナル學者及ヒ著述ハ「クンペンバツ」^{グレンツ}「ザ
ブクス」^{ボツケ}等ノ財政學セツフル「ヒルデブラント」^{シエール}「クニース」<sup>ノイ
マン</sup>「カイツル」^{フハル}「マイエル」^{シエミツド}等ノ租稅論セエーシベルヒ「シ
ユモーレル」^{シヤンツ}「コンラツド」等ノ財政學ノ叢書等皆有數ノ著述ニシテ
「スタイン」ノ所說斬新奇抜ナル「ロツセル」^フ考證該博ナル「コーン」ノ簡單明瞭ナル
財政學ノ發達ニ其功勞尠シト爲サス殊ニ「アドルフ」^{ワグネル}ハ千八百七十三年
其財政學ノ第一編ヲ刊行シテ今日迄ニ第三編ニ及ヒ漸ク其總論ヲ終ルニ
至レリ蓋シ氏ハ「ラウ」氏ノ財政學ヲ増補改正スルノ傍ラ將ニ獨立ナル財政學ノ
基礎ヲ立ラントスルモノノ如シ氏ハ講壇社會主義ノ領袖トシテ又「ビスマルク」
ノ經濟顧問トシテ其經濟及ヒ財政ニ關スル著述ハ氏カ斯學ニ對スル現時唯一
ノ大著トシテ承認スル所ナリ 實ニ財政學ノ發展ニ大ニ功勞有キ者ナリ
此學派ハ「ビスマルク」カ第八十年代經濟政策ニ起リ千八百七十三年以來勞働者

ノ強制保險法行ハレ同八十一年十一月十七日「獨逸皇帝」ノ勅語ハ勞働者ノ利
益ノ爲メニ積極的方策ヲ執ルコトヲ明言シ同九十年二月四日又社會政策上ノ勅
語ヲ下セリ斯ノ如ク獨逸ニ於テハ學說實際共ニ社會政策ノ方針ニ傾キ財政學
ノ社會的研究ハ漸次歐米ノ諸國ヲ風靡スルニ至レリ近時伊太利ニ於ケル有名
ナル財政學者「コッサー」^{ニラノ}「マルコ」^{マツツラ}「ブル」^{バンタレオ}「コ
ングリアニ」^{アレフシオ}等ノ多數ハ獨逸派ノ系統ニ屬スルニ至レリ
前欸ニ於テ述ヘタル最近ノ英米財政學者即チ英國「パスター」^{ブル}米國「ア
ダム」^{セリーグマン}「イリー」等ノ如キハ又均シク獨逸派ノ系統ヲ受タルモノナリ
獨逸佛國ニ於テハ正義自由ノ觀念ヲ基礎トシテ社會主義ヲ排斥シ而モ專ラ歷
史の統計のノ著書輩出シ「レラン」^{セイフ}財政學堂書ノ如キ有名ナルモノナリ其
他「ガルニエール」^フ財政學「ロア」^{ボリウ}「フ」財政學ノ如キ著名ナルモノニシ
テ就中「ボリウ」ハ第一流ノ財政學者トシテ國家ノ職務ニ付テハ舊派ノ如ク狹
隘ナル意見ヲ持セサレトモ經義論ノ如キハ財政學ノ範圍外ニ在リトシ又租稅
ノ賦課ハ比例稅ヲ取リテ累進稅ヲ排斥シ別ニ一旗幟ヲ立テ獨逸派ニ對抗セル

余八月ノ一方ニ屈曲シ過クルヲ發見セリヨリ之ヲ直ニ矯メンカ爲メ又他

テ解釋ヲ異ニスルモノナリ

蘭西民法學太利民法(千八百十一年)等ハ法則說ニ依據セリ

ストロ「アレキサンデル、タルタニユ」等ヲ經テ佛蘭西ニ移レリ當時佛國ニ二大

學者アリ「カロールスモリナウス」(巴里ノ狀師)及「ベルタンズアルゲントラウス」(ブルタニユ)ノ法律家即チ是ナリ「モリナウス」ハ羅馬法ハ普通法ニ非ス佛國ノ慣習モ亦管人法ニシテ國境外ニ行ハルルコト並ニ當事者ノ意思ヲ以テ法則ノ適用ヲ左右シ得ヘキコト等ヲ主張セリ「アルゲントラウス」ノ説ニ依レハ不動產ニ關スル法律關係ハ物法ニ依リ人ニ關スル法律關係ハ人法ニ依リ行爲能力ノ問題ハ行爲地法混合法ニ依ル面シテ動產ハ所有者ノ住所法ニ依ル

此二人ニ由リテ隆盛ヲ極メタル佛國ノ法學モ其凋謝ト共ニ衰替セリ(千六百年)而シテ此二人者ノ佛國ノ法學者ニ及ホシタル影響ニ至テハ「アルゲントラウス」ハ「モリナウス」ニ及ハス而シテ「アルゲントラウス」ノ説ハ却テ和蘭ニ於テ知己ヲ得タリ「ブルタンズ」(ローデンブルヒ)「プアエト」等ハ其顯著ナル者ナリ「ブルタンズ」千五百八十六年乃至千六百四十九年ハ債務ニ關スル法律關係ヲ人法ノ管轄ニ歸シ物法ヲ以テ物上訴權ヲ附與スル法則ト爲シ混合法ヲ以テ物上對人ノ二訴權ヲ附與スル者トセリ而シテ不動產ニ對スル物件ニ付テハ物件ノ所在地

法ニ依リテ決定スト雖モ不動產ニ關スル債務問題ハ人ノ住所法ニ依リテ決定セラル但シ人トハ何人ヲ指稱スルヤ明ナラス

「ローデンブルヒ」(千六百十八年乃至千六百六十八年)ハ人法ヲ解キテ人ノ固有ノ性質ヲ定ムル法則ト爲シ混合法ヲ解スルコト「ブルタンズ」ニ同シト雖モ其ノ適用ハ全ク彼ニ異ナリ而シテ「ローデンブルヒ」ハ主トシテ行爲能力相續夫婦財產等ノ事項ヲ精密ニ研究スレトモ債權ヲ説明スルコト不完全ナリ但シ夫婦財產ノ研究ニ就テハ「ブルタンズ」ヲ祖述シテ更ニ一步ヲ進メタルモノナリ「プアエト」(千六百十九年乃至千六百七十七年)ハ主權獨立ノ説ヲ前提トシテ人法物法混合法ヲ説明セリ以爲ラク人法ト雖モ外國ニ居留スル臣民ヲ羈束スルコト能ハス唯行爲能力ノ規定ハ此限ニアラスト「プアエト」ノ説ハ晦澁ナリ説ヲ論證ノ立タサル處ニ至レハ忽チ人情及ヒ禮讓ノ二説ヲ以テ其説明ニ充ツ「プアエト」ノ主權説ヲ更ニ數歩進メタルモノアリ「ユーベル」(千六百三十四年乃至千六百九十四年)是ナリ

「ユーベル」ノ説ニ曰ク凡ソ法律ハ國境ヲ越エス國境內ノ人ハ内外人ヲ問ハス悉

ク之ヲ遵奉セサルヘカラス但シ國家元首ノ主權ト人民ノ權利ヲ害セサル限リハ禮讓ニ由リ外國ノ法律ヲ適用スルヲ妨ケス此場合ニ於テハ法律行為ノ效力ハ行為地法ニ依リ人ノ性質ハ住所法ニ依リ不動產ニ關スル法律關係ハ物件ノ所在地法ニ依ルト「ユーベル」說ニ依レハ契約ト雖モ不動產ニ關スルトキハ不「動產ノ所在地ニ依ルナリ」ユーベルノ說ハ廣汎ニ失ス

和蘭ノ學說獨逸ニ移リ「メイウキウス」(千六百七十年死)「ラウタルバツ」(千六百十八年乃至千六百七十八年)「ヘルチウス」(千六百五十二年乃至千七百十一年)等ハ孰レモ之ヲ祖述セリ然ルニ十八世紀ニ至リ佛國ニ於テ「アルゲンントラウス」及ヒ和蘭學派ニ心ヲ傾クルモノ漸ク多キヲ加ヘ中ニ就キ「ブーイユ」(「ブルノ」)「最モ善ク顯ハル余輩ハ之ヲ佛國復古學派ト名ク

「ブーイユ」(千六百七十三年乃至千七百四十六年)ハ外國ノ法律ヲ適用スルハ國家ノ好意及ヒ相互利益ニ出ツルト爲シ左ノ原則ヲ立テタリ

一 無形ニシテ且ヲ不可分ナル權利此語頗ル奇ナリニ關スル法則ハ人法ナリ
反言スレハ國境外ニ行ハル

二 當事者ノ承諾ニ基ク法則ハ人法ナリ故ニ國境外ニ行ハル

三 公ノ理由ニ依リ或事ヲ禁止スル法則ハ人法ナリ故ニ國境外ニ行ハル

四 行為ノ方式ニ關スル法則ハ人法ナリ故ニ國境外ニ行ハル

「ブーイユ」ハ右ノ外ノ法則ヲ以テ國境外ニ行ハレサル法則ト爲セリ

「ブールノア」(千六百八十年乃至千七百六十二年)ハ「ローデンブルヒ」ヲ祖述スル者ナルカ故ニ其意見ハ大體ニ於テ「ローデンブルヒ」ニ異ナルコトナシト雖モ法律ノ文面ニ固着セシテ立法ノ理由ヲ參酌スルノ一點ハ「ローデンブルヒ」ニ勝ル所アリ

以上ノ諸說ハ孰レモ皆法則說ノ系統ニ屬スルモノナリ同一ノ法則學派ニシテ其見解ノ相異ナル此ノ如シ亦以テ人法物法混合法ノ區別カ完全ノ者ニ非サルコトヲ明ニスルニ足ル法則說ハ此ノ如ク誤謬アルカ故ニ其勢力次第ニ消沈セリ然ルニ本世紀ノ首ニ於テ「チバウト」及ヒ「キールルフ」ノ二氏カ此說ヲ辯護セシ爲メ稍々掉尾ノ勢ヲ呈セタリ「チバウト」ノ立テタル原則三アリ左ノ如シ

一 諸般ノ法律關係ハ臣民カ被告ト爲ルヘキ法院ノ法律人法ニ依ル外國ニ於

ヲ訴ヘララルトキト雖モ亦同シ但シ人法ニ反對ノ規定アルトキハ此限リニアラス

二 訴訟ノ方式取引ノ方式成立及ヒ效力並ニ犯罪ハ混合法ニ依ル反言スレハ訴訟ヲ提起シ取引ヲ爲シ又ハ罪ヲ犯セタル地ノ法律ニ依ル但シ住所ノ法律ヲ避脱スル目的ナルトキハ住所法ヲ適用ス

三 不動産又ハ之ニ均シキ寄カ存スル地ノ法律カ此物件ニ付キ規定スル所アルトキハ人法及ヒ混合法ニ拘ラス此法律物法ヲ適用ス

「ハーレルフ」當時千八百十三年ニ於ケル獨逸ノ實例ヲ舉ケテ以テ訴件カ人ニ關スルトキハ普通裁判籍アル地ノ法律ヲ適用ス即チ通例住所法人法ニ適用ス

(二) 若シ訴件カ物ニ關スルトキハ物件ノ所在地ノ法律物法ニ依リテ裁判ス(二) 若シ訴件カ行為即チ意思表示ニ關スルトキハ行為單獨行為契約不法行為等アリタル地ノ法律ニ依リテ裁判ス(三)

「ナバウト」「キールフ」ニ由リテ總ニ掉尾ノ勢ヲ呈セシ法則說モサグ非ニ「ウエヒラル」等ノ攻擊ノ爲メニ今ヤ全ク其勢ヲ失セリ若シ夫レ今日ニ於ケル學說ノ

實現ハ本章ニ於テ其一斑ヲ示スヘシ
以上述ヘタル國際私法ノ沿革ヲ約スレハ左ノ如シ

一 混沌時代

- 二 屬人主義一各人種主義ノ時代
- 三 屬地主義一各封建主義ノ時代
- 四 「パルトルス」ノ代表シタル法則說一名伊太利學派ノ時代
- 五 十六世紀ノ佛國學派時代「モリナウス」「アルグントラウ」ノ時代
- 六 十七世紀ノ和蘭學派時代「ブルダンブス」「ローデンプル」等ノ時代
- 七 十八世紀ノ佛國復古學派
- 八 十九世紀ニ於ケル法則說ノ淵薈

第四章 國際私法ニ關スル新說及ヒ其批評

第一 法律關係發生地法說

此說ヲ唱フルモノハ曰ク法律關係發生ノ地ハ法律關係其者ニ密着ノ關係ヲ有

スルモノニシテ此關係ノ將來ノ運命ニ關係アルモノハ獨リ此地ノ法律ノミト
此說ハ一理アルニ似タレトモ法律關係ニハ永久の性質ヲ有スルモノト否ラ
サルモノトアリ永久の關係ハ一國ノ利害ニ大關係アルノミナラス個人ノ利
害上ヨリ見ルモ一定ノ標準ニ依リテ永ク確定セラルヘキモノトス例ヘハ能力
ノ如キハ今日ノ無能力者カ明日ハ有能力者ト爲リ又其後無能力者ト爲ルコト
ヲ許ササルモノニシテ法律關係發生地ノ法律ニ依レハ本國ニ於テ能力アル者
モ忽チ無能力ト爲リ又本國ニ於テ能力ナキ者モ能力アル者ト爲ルカ如キ結果
ヲ生スヘシ例ヘハ一步ヲ國境外ニ轉シテ無能力者カ契約ヲ爲シタル場合ニ法
律關係發生地ノ法律ニ依リ忽チ能力者ト爲ルニ於テハ無能力者保護ノ規定ヲ
如何セン蓋シ能力ハ風土氣候智識ノ發達等ヲ標準トシテ定メタルモノナルカ
故ニ永久の性質ヲ有スルヤ明ナリ身分ニ付テモ亦然リ同一ノ人カ甲國ニ於
テ親屬ト看做サレ而シテ乙國ニ於テ他人ト看做サルルハ身分ノ性質ニ乖タモ
ノト云フヘシ

法律關係發生地法說ヲ嚴擊スル者ハ往往法律關係發生地ニ不明ノ場合多キヲ選

由トシテ攻撃スル者アリ例ヘハ鐵道内ニ於テ取引ヲ爲シタルトキノ如シ或ハ
法律關係發生地無キコトアルヲ理由トシテ攻撃スル者アリ例ヘハ風船若タハ
無人島ニ於テ契約シタル場合ノ如シ然レトモ此等ノ攻撃ハ皆極端ノ者ニシテ
價值ヲ有スルモノニアラス

第二 伊太利ノ本國法說

伊太利ニ於テ「マンチニ」カ本國法說ヲ唱ヘシ以來此說ハ諸國ニ傳播スルニ
至レリ其說ニ依レハ一切ノ涉外的法律關係ヲ本國法ニ依リテ決定セントスル
モノナレトモ許多ノ例外ヲ設クルヲ以テ其原則ノ大半ヲ覆没スルニ至レリ本
國法說ハ勿論絶對的ニ誤謬ニアラサルコトハ能力及ヒ身分等ノコトヲ論スル
ニ當リテ説明スヘシト雖モ意思ノ解釋ヲ本旨トスル債權ノ問題若タハ國家自
體ニ關係アル不動産等ニ本國法ヲ適用スルハ贊成スルヲ得ス

第三 訴訟地法說一名法廷地法說

此說ヲ唱フル者ハ曰ク主權ハ國境ヲ越エズ法律ハ國外ニ其效力ヲ及ボサス故
ニ裁判所ハ外國ノ法律ヲ知ルノ職務ナク又之ヲ適用スルノ職權ヲモ有ス隨

テ涉外的法律關係ニ付キ訴ヲ提起シタル者アルトキハ裁判所ハ自國ノ法律即チ訴訟地法ニ依リテ裁判スヘキモノナリト云ヘリ國法ニ其效力モ及ボヤス右ノ説ハ主權ノ性質ヨリ打算セタルモノニシテ主權カ國外ニ效力ヲ及ボサス隨テ法律カ外國ニ效力ヲ及ボサストノ基礎ハ何人モ之ヲ疑フモノナカルヘシト雖モ外國ノ法律ヲ適用スルハ之ヲ適用スヘキ必要アルカ爲メ內國ニ於テ之ヲ認メタルノミ決シテ外國ノ法律カ內國ノ裁判所ヲ羈束スルカ爲メ之ヲ適用スルニ非サルナリ若シ涉外的法律關係ニ外國ノ法律ヲ絕對ニ適用セサルニ於テハ外國ニ於テ得タル既得權ヲ侵害シ或ハ内外人平等ナリト云ヘル原則ニ牴觸スル結果ヲ生スヘシ外國ノ法律ヲ適用スルハ全ク此ノ如キ不都合ヲ避ケンカ爲メニ外ナラス是ニ於テカ今日訴訟地法說ヲ唱フル者益々減少スルニ至リタリ

第四 法律關係ノ性質說

此說ハ「サビニ」カ主張セシ所ナリ其說ニ曰ク凡ソ一切ノ法律關係ハ一定ノ法律ニ屬スルモノニシテ若シ外國ノ法律ニ屬スル法律關係ナルニ於テハ內國ニ

於テモ亦外國ノ法律ヲ認メタルヘカラス例ヘハ動產不動産上ノ權利ハ其性質上所在地ノ法律ニ屬スルモノナルカ故ニ此權利ノ得喪ニ關スル問題カ所在地以外ノ國ニ於テ起リタル場合ニ於テモ必ズ所在地ノ法律ニ依リテ其問題ヲ決定セサルヘカラスト

此說ハ「サビニ」以來獨逸ニ於テハ殆ト定説ト爲リシカ其他ノ國ニ於テモ之ヲ贊成スル學者頗ル多ク近世ノ立法例ニ於テ之ヲ採用セシ例尠カラス蓋シ法律關係ノ性質ハ同一ナルモノニ非サルカ故ニ一定ノ準據法ヲ以テ其問題ヲ管轄スルコトヲ得サルハ勿論ナリトス例ヘハ人ノ身分能力ニ關スル問題ト物權若クハ債權ニ關スル問題トハ其性質ヲ異ニスルモノナリ果シテ然ラハ此學說ヲ應用スルニ當リ或ハ法律關係發生地ノ法律ノミヲ適用シ或ハ本國法ノミヲ適用シ或ハ又訴訟地法ノミヲ適用スル能ハサルハ洵ニ觀易キノ道理ナリ是「サビニ」說ニ多數ノ贊成者出ラタル所以ナリ本論モ亦此說ヲ基礎トシテ說明スヘシ

第五章 法例ト國際私法トノ關係

法例ハ法律慣習ノ效力及ビ適用ヲ定ムル法律ナリ今日廣ク行ハルル定義ニ依
レハ法例ハ法律適用ノ原則ヲ定ムル法律ナリト云ヘリ此定義ハ廣汎ニ失スル
ノ憾アリ例ヘハ法例第一條ノ如キハ法律ノ施行期日ヲ定メタルモノニシテ適
用トハ全ク關係ナキモノトス或ハ適用ト施行トヲ同一視スルモノアリト雖モ
法律ノ適用ハ現實的ノ事實ヲ生シタルトキ始メテ行ハルルモノニシテ法律ノ
施行ハ一定ノ時日ヲ經過スレハ當然生スルモノニシテ現實的ノ關係發生セザ
ルモ尙ホ且ツ法律ハ施行セラルルモノトス例ヘハ刑法ヲ數十年適用セサルトキ
ハ所謂法律ハ眠リタルモノニシテ法律ノ行ハルル事實ヲ妨クルモノニアラス我
法例中第一條及ヒ第二條ハ全ク國際私法ニ關係ナキモノニシテ國際私法ト關係
ヲ有スルモノハ第三條以下ナリ然ラハ第三條以下ハ國際私法其モノナリヤ或
ハ同條以外ニ國際私法ノ原則存在スルヤ此點ニ付テハ大ニ議論アリ抑モ國際
私法上ノ事項ハ千差萬別ニシテ僅僅三十條ヲ以テ此等ノ事項ヲ包括スルコト

ハ頗ル難シ要スルニ法例ニ記載セサル事項ハ我國ノ裁判所ニ於テ何レノ法律
ヲ標準トシテ其問題ヲ決定スヘキヤ是ニ於テカ更ニ法例ノ精神ニ溯リテ研究
スルコトヲ要ス即チ法例ハ「ナビニ」一派ノ唱ヘタル法律關係ノ性質說ヲ基
礎ト爲シタルヤ將又所謂例外法ニ過キササルヤ是レ吾人ノ研究スヘキ問題ナリ
トス

我法例ハ國際私法ノ原則ヲ網羅シタルモノニアラス例ヘハ國籍ヲ異ニシタル
船舶カ公海ニ於テ衝突シ之カ爲メニ我法廷ニ損害賠償ノ訴ヲ提起シタルトキ
ハ裁判官ハ何レノ國法ニ依リテ之ヲ裁判スヘキヤ斯ノ如キ場合ニ關スル各國
ノ例ヲ案スルニ或ハ法律ノ精神ヲ查案シテ判定スヘシト規定スルモノアリ獨
逸民法草案第一條普通西普通法典總則第四十九條索通民法第二十五條伊太利
民法第三條ノ如キ即チ是ナリ或ハ自然法ニ依リテ判定スヘシト定ムルモノア
リ埃太利民法第七條「バーデン」舊法典第四條ノ如キ是ナリ

我舊法例ニハ判事ハ法律ノ不備又ハ欠缺ヲ口實トシテ裁判ヲ拒絕スルコト能
サル旨ヲ定メ舊法例第十七條舊民法證據編第九條ニハ判事ハ條理ト公道トノ

普通原則ニ依リテ法律ノ規定ヲ補充スヘキ旨ヲ定ム佛國舊民法前加編第四條ニモ我舊法例ト同一ノ規定アリ但シ我舊法例ト佛國民法前加編第四條トノ間歷史上著大ナル差異アリ

佛國民法前加編ハ三權分立ノ學說ヲ基礎トシテ起リタル規定ナリ蓋シ佛國革命前ニ於テハ同國ノ裁判官ハ法律ニ不明又ハ不備ノ點アルトキハ立法者ニ其解釋ヲ需メ而シテ立法者カ司法權ノ範圍ニ干渉スルコトヲ怪シマナリシニ民法ノ制定者ハ之ヲ以テ三權分立ノ學說ニ反スルモノト爲シ遂ニ民法前加編第四條ノ規定ヲ設クルニ至レリ然ルニ當時佛國民法ハ法律界ノ福音タルカ如キ觀アリシカ故ニ佛國民法ヲ模範トキシ國ハ何レモ前加編第四條ノ規定ヲ採用スルニ至レリ我舊法例モ亦佛國民法ニ倣ヒタルモノニシテ世人或ハ之ヲ議スル者アレトモ予輩ハ却テ該條中ニ眞理ヲ包含スルコトヲ信ス然レトモ該條制定ノ當時ニ於ケル立法上ノ理由ヲ認メ三權分立ノ學說ヲ今日ニ回護スルモノニアラス今ヤ新法例ハ舊法例第十七條ヲ削除セリ然ラハ我法廷ハ前例ニ示シタル船舶衝突ノ問題其他法例ニ規定ナキ問題ヲ何レノ法律ニ依リテ決セントスルヤ

我法例ハ果シテ判事ニ裁判ヲ禁スル精神ナルカ是レ今日ニ於テ研究スヘキ問題ナリトス我國一派ノ學者ハ法例ヲ以テ例外法ト爲シ法例ニ規定ナキ場合ニハ總テ日本ノ法律ヲ適用スヘキモノナリト說ケリ然レトモ法例カ果シテ例外法ナルニ於テハ獨逸ノ「ウエヒタル」ハ風ニ此說ヲ主張セリ何カ故ニ我法例ハ日本ノ法律ヲ適用スルコトヲ併セテ規定セシヤ獨逸大審院ハ近頃「ウエヒタル」一派ノ認メタル說ヲ基礎トシテ判決ヲ爲セリ曰ク裁判官ハ主トシテ自國ノ法律ヲ適用ス唯自國ノ法律カ特ニ命令シ又ハ認許セシ場合ニ限リ外國ノ法律ヲ適用スルノミト此判決ハ獨逸民法施行法ノ發布以前ニ起リタルモノニシテ該法

ノ精神ト相容ルルヤ否ハ問題ナリ

抑モ涉外的法律關係ニ外國法ヲ適用スル所以ハ他ナシ如何ナル場合ヲ問ハス總テ內國ノ法律ヲ適用スルトキハ内外交通ノ效果ヲ減却シ内外人平等ノ法理ヲ設ケタル法界ニ存スル事物必然ノ理ニ適ハサルナリ元來法律ハ社會ノ需要ニ應センカ爲メニ起ルモノニシテ其實質ハ社會ニ存スル事物必然ノ理ニ外ナラス之ヲ換言スレハ社會ニ存スル事物必然ノ理カ法律ノ力ヲ藉リテ外面ニ現

「レタルニ過キスシテ法律ハ之ヲ制定セシモノニアラス蓋シ立法者ハ社會ニ存スル一切ノ事項ヲ法文ニ表示セント欲スルモ得ヘカラサルモノニシテ法律ニ規定ナキモ社會ニ存スル事物必然ノ理ヲ否認シタルモノニ非ス或ハ曰ク事物必然ノ理ナル語ハ頗ル漠然タルモノナリト然レトモ主觀的ニハ漠然タルカ如キモ客觀的ニハ漠然タルモノニアラス唯吾人ノ研究力不十分ナル爲メニ漠然タル感アルノミ彼ノ太陽ノ如キハ學者ヨリ之ヲ觀レハ其實質不明ニシテ學者ノ見解一ナラスト雖モ客觀上ニ於テハ太陽ノ性質ハ一定セリ事物必然ノ理ト雖モ亦之ニ外ナラス學者ノ研究十分ナルニ於テハ之ヲ發見スルコト難カラズ即チ國際私法ヲ理論上研究スル者ノ職務ハ實ニ之ニ外ナラス

是ヲ以テ法例ニ規定ナキ場合ト雖モ能ク當該法律關係ノ性質ヲ案シ之ニ適合スル法律ヲ選ンテ適用スヘキノミ我法例ハ蓋シ之ニ外ナラス即チ裁判官タルモノハ學理ニ照シ以テ準據法ヲ定メサルヘカラス依之觀之佛國民法前加編第四條又ハ我舊法例第十七條及ヒ舊民法證據編第九條ノ如キハ一ノ眞理ヲ包含スルモノト謂フヘシ

ヲ冥加トシ賣上高ノ一定ノ割合ヲ納ムルヲ分一ト稱スルカ如シト雖モ冥加金ト稱スルモノヲ指シテ運上ト稱シタルカ如キ實例アルヲ以テ見レハ用語ハ必スシモ精確ノ字義ヲ有スルモノト爲ス能ハサルカ如シ

小物成ニモ附加ノ口米永ナルモノアリ

課役

課役ハ北條氏時代ニ於ケルト大差ナシ唯鎌倉府ノ時課役類繁尼利氏ノ時誅求度ナシ徳川氏ニ至テハ驛傳助郷ノ率ヲ定メ村役ヲ課スレハ三役ヲ免シ田畑五分以上ノ損害アルトキハ則チ諸役ヲ除ク等各定法ヲ設ケタリ

三役(六尺給米、周備、馬宿、入用)モ亦一ノ課役ナリ即チ六尺給米トハ鎌倉府ニ役使スル人夫ヲ高ニ課課シタルモノニシテ後ニハ六尺ノ人員ニ隨テ其給米ヲ課シタルモノナリ殿前入用トハ民人田租ヲ上納スル時ノ雜費ニ充ツル爲メニ課課スルモノニシテ傳馬宿入用トハ實永年間宿手代ナルモノヲ五街道ノ驛郵ニ置キ之ニ給スルカ爲メニ課課ス後手代ヲ廢シタルモ尙ホ之ヲ徵シテ問屋本陣等ニ給ス

徳川氏ノ時代ニ於テ舊國役ナルモノアリ堤川ノ修理外國ノ來聘日光法會道上諸費等ニ要スルモノハ之ヲ國ノ定メテ其國高ニ賦課セタリ是レ亦一種ノ課税ナリ

諸川舟渡等ノ役ヲ課スルモノナリ
明治維新ノ初ニ於テハ租税ニ關シテ舊德川氏ノ遺制ニ準由リテシカ爾後租種ノ改廢ヲ經テ終ニ今日ノ如キ制度ト爲レリ現行國税ノ維新後ニ於ケル變遷ニ關シテハ各税ニ就テ説明ヲ爲スニ當リ更ニ之ヲ記述スルノ機會アルキヲ以テ今茲ニハ細說スニ唯茲ニハ徳川氏ノ遺制カ如何ニ變遷シタルヲ概見スルニ爲メ維新當初ニ於ケル其大體ノ比較ヲ爲サントス

租税ノ第一ニ關シテ口米米價ノ如キモノ
從來租ハ耕地及ヒ郡村宅地ニノ賦課シ市街宅地ニハ地子ヲ課シ又ハ之ヲ免除シタリシカ明治五年ニ至リ地子免除地ト稱シ無税ノ特典ヲ有シタル東京ヲ始メ全國通邑大都ノ市街地ニ地券ヲ發行シ地價ヲ付シテ分一稅ヲ

課税
日歐戰シタリ爾後地租改正ヲ施行シ民有地ハ其耕宅地タルト山林原野タルト其價ヲ問ハス惣テ之ニ地價ヲ付シ地租ヲ徵收スルコトト爲レリ市街地ハ舊時ノ小物成ハ各地習慣ニ隨ヒ把極アルコトナク甚シキニ至テハ租税ト止シ且ツ新ニ税目ヲ設ケテ施行シタルモノ抄カラス今舊時ノ小物成中左ノ掲タルモノハ維新後明治八年頃マテニ更正シタルモノニシテ其他ハ悉ク廢止セラレタルモノナリ

酒造 元年 釀酒 同 船 同 牛馬賣買 同 蠶種生絲税 二年 統獵税 三年 鹽山税 四年 絞油税 同 碇泊税 六年 尙年同年間ニ於テ新ニ施行シタル税目左ノ如キ

專賣特許税 新設 年 奴婢税 新設 年 馬車税 同 人力車税 同 駕籠税 同 乘馬税 同 遊船税 同 證券印紙税 同 營繕税 同 諸會社税 創設 年 車税 同 煙草税 同 度量衡税 同

舊小物成中地中ニ屬セシモノハ地租改正マテハ現存シ地租改正ト共ニ廢止セラレタリ
課役ハ明治八年マテノ間ニ漸次之ヲ廢止シタリ

賦金

明治六年俵婢馬車人力車等ノ諸税起ルニ方テ其税額ノ外幾分ヲ増課シ以テ修路警察費等ノ諸費ニ充ツルハ府縣ノ適宜タラシメ之ヲ賦金ト稱ス
維新當初ニ於テハ租税ハ總テ國税タリシヲ明治八年二月從來ノ雜税中國税トシテ存スヘキモノノ外ハ悉ク之ヲ廢止シ其九月ニ租税賦金ヲ國稅府縣稅ノ二款ニ分テ全國一般ニ賦課シテ國費ニ供スルモノヲ國稅トシ賦金ト稱シ收入スル諸費及ヒ始ク舊債ニ依リ地方ニ於テ收入セル雜稅等ニシテ其地方ノ費用ニ供スルモノヲ府縣稅ト稱シタリ明治十一年七月ニ至リ府縣稅及ヒ民費ノ名ヲ以テ徵收スル府縣稅區費ヲ改メテ地方稅トシ其後明治二十一年ニ至リ市町村稅ノ日起リ同二十三年府縣稅ノ制アルニ至リ今日ニ於テ租稅ニハ國稅府縣稅市町

○講義録月謝拂込ニ付テ

ノ注意

講義録ノ月謝ヲ拂込マルル際ニハ必ス左ノ項目ヲ明記セラルルコトヲ要ス

何 年 度 (例ハ三十二年度)
(又ハ三十三年度)

第 何 部 (例ハ全部又ハ第一部)
(第二部第三部等ノ如シ)

受取済ノ號數 (例ハ二號マテ又ハ)
(四號マテノ如シ)

尚爲替ハ必ス飯田町支局 拂渡トシ受取人ヲ

和佛法律學校會計課ト記載セラル

ルコトヲ要ス

和佛法律學校

明治廿二年十二月九日內務省許可

明治三十三年三月六日印刷

明治三十三年三月十日發行

東京市四谷區四谷仲町三丁目六番地

編輯者 小 田 幹 治 郎

東京市芝區西ノ久保町舟町十一番地

印刷者 金 子 鐵 五 郎

東京市芝區西ノ久保町舟町十一番地

印刷所 金 子 活 版 所

東京市麹町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 指定 和佛法律學校

(電話番町百七十四番)